

のほりきたる(上来)〔四〕

みやこの物まうてせんとてのほりきたるに

のみ〔副助〕

我心のみそかへすくうらめしかりける

たゝいひしらぬなみたのみむせかへりたる

心つくしなることのみまされば

ゆたのたゆたにものをおもひくちにしはては

よのわつらはしざにおもひなからのみなん凶

たゝいまになりては心ほそきことのみおほかれと

みちすからまつかきくらす涙のみさきにたちて

せきのし水もたえぬなみたとのみ思ひなされて

とてもかくてもねのみなきかちなり

われかのこゝちのみしてみのをほりのさかひにもな

りぬ

おもひいてゝ名をのみしたふみやことり 〇

人しれぬ心の中のみさまくくるしくて

みやこのかたのみ恋しく

よるは夜すからものをのみおもひつゝくる

おもひわひてねのみなかるゝを

みやこはちかき心のみはかりにていつるをかきりにと 〇

は

は(端)

山のはちかきひかりのほのかにみゆるは

一五〇10

△源氏▽

一〇11

三ウ11

六〇4

二〇4

三ウ5

一六〇3

一六〇4

一六〇7

一六ウ3

一六ウ11

一七ウ5

一八〇2

一九〇4

一九〇6

二〇〇4

三ウ2

△源氏▽

五ウ7

は(葉)

ことの葉

木の葉のかけにつきて夢のやうにみをきし山ちを

ふたはよりまいりなれにしかは

は〔係助〕

打しきる夢の通ひちは一夜はかりのとたえもあるまし

をのつからたのむる宵はありしにもあらず

とりはものかは 〇

さすかにたえぬ夢の心ちはありしにかはるけちめも

きたたえなきころの空のけしきはいとゝ袖のいとまなき

うきふるさとはいとゝわすられぬるにや

日比のつらさはみなわすられぬるも

いひしにたかふつらさはしもありしにまさる心地する

立よる人の御おもかけはしもさとわかぬひかりにも

ならひぬへきこゝちする

こよひはつれなくてやみなまし 〇

こよひはいとさひしく物おそろしきこゝちするに 〇

人はみなねぬれと

人はみな何心なくね入ぬる程に

人はみなおきさはけと

人はこゝまでおもひやはよる 〇

人はみぬへきさまなる 〇

しのはぬ人はあはれともみし 〇

こゝもとはいとあやしととかむる人もあれば

三〇4・三ウ1・二ウ6

△源氏▽

八〇3

二ウ2

一ウ3

一ウ11

二〇2

二〇3

二〇6

二ウ11

三ウ4

三ウ9

四ウ10

六ウ4

五ウ4

六ウ8

一五ウ11

一四ウ5

一五ウ3

三〇10

八ウ2

これはなに人そ<sup>詠</sup>

九オ10

御まへは人のてをにけいて給か<sup>詠</sup>

九オ10

これは人をうらむるにもあらず<sup>詠</sup>

九ウ6

山ちはなを人のこゝちなりけるか

二〇オ7

あきかせはほけ三まいのみねの松かせに吹かよひ

二〇ウ9

月かけはりやうしゆせんの雲井はるかに心を送る：

二〇ウ11

心はこゝろとして猶思ひなれにしゆふくれのなかめに二オ10

つまとは引たてつれと

二オ4

おもひいつるほにもなみはさはきけり<sup>詠</sup>

二オ9

つきせぬ涙のしづくはまとうつあめよりもなり

二五オ6

ころは神な月の廿日あまりなれば

二五ウ9

こゝはいつくく<sup>詠</sup>

二六オ8

うしろはまつはらにて

二六ウ6

しほのさすときはこの河の水さかさまになるゝ

二八ウ10

ひるはひめもすになかめよるは夜すからものをのみ

一九オ1

おもひつゝくる

一九オ5・5

ふしの山はたゝこゝもとにとそみゆる

一九オ11

うへなきものはと思ひつけこゝろのたけそ<sup>詠</sup>

一九ウ2

このたひはいと人すくな心ほそけれと

二〇ウ6

このたひはくもらはくもれかゝみやま<sup>詠</sup>

二オ10

みやこはちかき心のみはかりにて

二ウ1

おい人はうち見えてこよなくをこたりさまにみゆるも<sup>三オ2</sup>

三オ2

そのゝちは身をうき草にあくかれし心も

三オ5

ありしにまさる心地するはいかにおほしまとふらんと<sup>四オ10</sup>さとわかぬひかりにもならひぬへきこゝちするは<sup>五オ10</sup>いそきのほりなんとするは人のおもふらんことゝ<sup>一九ウ10</sup>ひかりのほかにみゆるは七日の月なりけり<sup>五ウ8</sup>今とはみるはあはれあさからぬなかに<sup>六ウ2</sup>それとはかりも見をくりきこゆるはいとうれしくも<sup>一三ウ1</sup>れいのまつほとすきぬるはいかなるにかと<sup>五オ1</sup>こゝろの中はかりにてくたしはてぬるはいとかひなし<sup>三ウ10</sup>たちはなれなんはさすかに心ほそくて<sup>二〇ウ1</sup>この世にはいつかはおほえん<sup>八ウ3</sup>

↓いまは(四例) ↓いま

かつうはいとあやしく仏の御心の中はつかしけれと<sup>二ウ1</sup>

↓さは(三例)

しはしは御まへにともなる人々：<sup>二ウ5</sup>

↓はては(二例) ↓はて

きえかへりまたはくへしとおもひきや<sup>四ウ10</sup>おなしくはそあたりまでみち引たまひてんや<sup>九ウ11</sup>かはらずはまたきてなるゝおりもこそあれ<sup>二〇ウ4</sup>とりはものかは<sup>二オ2</sup>

↓こそは(二例) ↓こそ

↓ては(三例)

↓とは(二例)

この程にてはあめふりいてたりしそかし<sup>三オ8</sup>

三オ8

↓には(一七例)

なにゆへ…この山なかへはいて給ぬるそ圖

九ウ2

↓までは(二例) ↓まで

↓やは(二例)

↓よりは(二例) ↓より

ば

△源氏▽

さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを圖 一五オ7

このたひはくもらはくもれかゝみやま圖 三オ10

みつからきこえあはせたくなとあれは…たのみをか 四ウ4

とかむる人もあれはものむつかしくおそろしき事 八ウ2

つましあれはにや圖 一八オ10

はやかへり給へなといへは…いそきいつるに 二ウ6

みち引たまひてんやといへはいよくいとおしかりて 三オ1

おもひなりにしもといへはえにかなしきことおほかり 六オ6

よとゝもにおもひいつれはくれたけの圖 三ウ2

人しれすたのみをかくるもおもへはあさましく 四ウ5

よしやおもへはやすきことほりに思ひたちぬる圖 六オ4

やをらすへりいれは…人やおとろかんと…おそろし 六ウ8

とくあけて出ぬるをとすれは…はかくしくも… 八オ1

しぬへき心地さへすれはこゝによりるたる也圖 九ウ11

あやにくなるこゝちすれはつまとは引たてつれと 三オ4

じきりに身のありさまをたつぬれはこれは人を… 九ウ6

いつくにかとたつぬれはひらのたかぬ…といふを… 三ウ5

心つくしなることのみまされは 六オ4

山のかたをみやれば木々の紅葉色々に見えて 二ウ9

かの御文ともをとりいてゝみれば 六オ9

むかへの山をみれば…ゆくさきも見えず 八ウ8

河のはたにおりあてつくく…とこしかたをみれば 一七オ5

みかはのくにやつはしといふ所をみれば 一八オ5

おちつきところのさまをみれば 一八ウ5

ふみともあまたあるをみればいとおさなくより… 一ウ6

みやこの山をかへりみればかすみにそれとたに見えず 六オ11

されはさらんとすこしおかしくなりぬ圖 一八オ10

月もいみしくあかけれはいとはしたなきこゝちして 五オ5

心のおにもおそろしければかへりなんともしはて… 六ウ7

そらおそろしければものやうにいりてふしぬれと 七ウ7

山おほかれはいつくにかとたつぬれは 二ウ4

いとおもしろければすきかてにおりぬ 二ウ8

たればかりにかとめとゝめかたければかの人しれす… 三オ7

たちかへらん事もかたければものことになこり… 三オ9

さはかしくかたはらいたければとにかくに… 一ウ11

やるかたなく恋しければこよひはつれなくて… 四ウ10

いとくるしければうちやすみたるほと 三オ7

うみいとかたければみなとのなみこゝもとにきこえて 八ウ11

いてきこえんかたなければたゝいひしらぬなみた… 三ウ11

宵ねすへきともゝなければ…たゝひとりうちふし… 三ウ7

けちかくとふへき人もなければ…はるくゝとゆくを 一六ウ7

ふたはよりまいりなれにしかはすくれてたのもしき… 二ウ3

- ひとひにほいとけにしかは…うちもうれしく思ひ… 一〇ウ 1  
 心をいたましむるつまとなり、**ければ**…なみたををさへ 一〇オ 8  
 ものさはかしくなり、**ければ**みさすやうにてたつ程 三〇オ 2  
 かとをあげていつるならひなり、**ければ**…まつに 七ウ 10  
 つるにきえはて給に、**ければ**そのほとまきれにや… 四〇オ 7  
 うつ、心もあらずあくかれそめに、**ければ** 一〇オ 5  
 いたくまはりはてに、**ければ**松かせのあらくしきを 九オ 5  
 へたよりはてに、**ければ**…いとかななき心ちして 二ウ 9  
 いのちのかきりあり、**ければ**やうく心ちもをこたり… 四ウ 6  
 さま／＼とむる人もおほかり、**ければ**おもひわひて 三〇オ 4  
 むねうちさはきてひきひろ**ければ**は 三〇オ 9  
 やをらはしをあげた**れば**つこもり比の月なき空に… 七ウ 3  
 かのところに行つ、**きたれば**かねてきつるよりも… 三ウ 4  
 く**れば**つるほとにゆきつ、**きたれば**おもひなしにや… 三ウ 9  
 こゝなからともかくもなりなはわつらはしかる… 一三オ 1  
 しやうしひとへをへたてたる居ところな**れば** 六ウ 11  
 外なるともし火のひかりな**れば**筆のたちとも見えす 七オ 10  
 きた山のふもと、いふ所な**れば**人めしけからす 八オ 2  
 にし山のふもとな**れば**いとほるか成に 八オ 8  
 みわたさるゝほと道な**れば**さはりなく行つきぬ 八オ 11  
 なきになしはてつる身な**れば**あしのゆくにまかせて 八ウ 4  
 いまとちめはてつるいのちな**れば**身のぬれとをり… 九オ 3  
 はかなけなる所のさまな**れば**…たへしのふへくも… 三ウ 5  
 ねさめのもよほしな**れば**…かけはかりを友として 一五オ 4

- ころは神な月の廿日あまりな**れば**あり明の光も… 二五ウ 10  
 いかになるみの浦な**れば**おもふかたには… 一八オ 3  
 くさもみなかれたるころな**れば**にや…くさ木もなし 一八オ 8  
 したはぬこゝちな**れば**又なりゆかんはていかゝ 三〇オ 8  
 月のひかりまちいてぬ**れば**れのつまとをしあげて 一オ 4  
 ことの葉のつゝきも見えずなりぬ**れば** 三ウ 2  
 夜もやうくほのくとするほとになりぬ**れば** 八ウ 1  
 みやこいてゝはるかになりぬ**れば**かのくの中に 一八オ 11  
 そきおとしぬ**れば**このふたにうちいれて 七オ 3  
 かゝるわたりをさへへたてぬ**れば**いとみやこの 一七オ 10  
 かきくれぬ**れば**関屋ちかくちやすらひたるに 二オ 2  
 いける心ちたにせぬ**ば**けに…おもひしられる 二オ 2  
 とにかくにさはるへきこゝ地もせぬ**ば**にはかに… 三〇オ 1  
 おもひしつむる時なきにしもあらぬ**ばかり**の世の… 二オ 8  
 かほしるきすいしんなとまかふへうもあらぬ**は** 三三オ 9  
 さりとととゝまるへきにもあらぬ**は**出ぬるみちすから 一七ウ 3  
 すみたかはらならぬ**は**ことゝふへきみやことりも… 一七ウ 3  
 人をみやまのはるかならぬ**は** 三〇オ 11  
 わつらはしかるへ**ければ**おもひかけぬたよりにて… 三三オ 2  
 ありしなからの心ならまし**か**は…思ひしらすそ… 四ウ 8  
 みやこのともにもうちくしたる身ならまし**か**は 一八オ 1  
 かゝらぬところにてやみなまし**か**はいかにせまし 一〇ウ 7  
 はかなき水くきのをつからこゝろの行たよりもや 二ウ 2

はかなき (果敢無) 「形」

△源氏▽

はかなきやとりもとめて、うつろひなんとす

三〇三

はかなきくもさへなつかしくなりぬ

二〇六

なけきなからはかなくすきて秋にもなりぬ

二五〇

はかなくもみすてられて心ほそかりつるおもひに

一九〇

さもあさましくはかなかりける契りの程を

一〇一

はかなしなみしき夜半の草まくら團

三〇〇

はかなげなる〔形動〕

△源氏▽

きゝつるよりもあやしくはかなげなる所のさまなれば三〇五

はかなげなるかきねの草に

二四〇

はかなげなるあしはかりにてむすひをけるへたてとも二〇七

はかばかしく〔形〕

△源氏▽

さるは心さす道もはかくしくおほえす

八〇一

たゝいまはかくしくうちそふ人もなくて團

三〇三

はかり〔量〕〔四〕

△源氏▽

御思ひのなこりもいとくるしくをしはかり聞ゆれと四〇一

ばかり〔副助〕

△源氏▽

一夜はかりのとたえもあるましきやうにならひにける一〇四

ちきりたかへぬしるへはかりにて

三〇九

人二三人はかりして物かたりなどするに

五〇三

くるしくたへかたきことしぬはかりなり

八〇六

すへてこゝちもうせて露はかりおきもあかられす

二〇九

三日はかりとにかくにさはりしかとも

二〇八

かりの世の夢の中なるなけきはかりにもあらず

二〇八

あはれはかりをおりく〔形〕にちりくることの葉もありし二〇五

このつゐてになとはかりおとろかしきこえたるにも三〇四

こゝろの中はかりにてくたしはてぬるはいとかひなし三〇〇

たればかりにかとめとゝめかたければ三〇七

いま一たひそれとはかりも見をくりきこゆるは三〇一

きやうつとてに持たるはかりそたのもしきともなり二〇二

かへにそむけるともしひのかけはかりを友として二〇四

人しれすこゝろはかりにはさてもいかに二〇一

はかなげなるあしはかりにてむすひをけるへたてとも二〇七

まことにかの人をみやこはちかき心のみはかりにて二〇二

うき身をたればかりかうまでしたはむ團

三〇四

とはかりこしかたゆくさきを思ひつゝくるに一〇八

はぐくみ〔育〕〔四〕

△源氏▽

いとおさなくよりはくゝみし人はかなくもみすてられ二〇六

はこのふた〔箱蓋〕

△源氏▽

ひるよりよいしつるはさみはこのふたなどの七〇一

そきおとしぬればこのふたにうちいれて七〇三

はさみ〔挟〕

△源氏▽

ひるよりよいしつるはさみはこのふたなどの七〇一

はし〔端〕

△源氏▽

いてぬへきこゝちしてやをらはしをあけたれば七〇三

はし〔橋〕

△源氏▽

むかしにはあらず：やはしもたゝひとつそみゆる二〇六

みかはのくにやつはしといふ所をみれば二〇五

はしたなき〔半端〕〔形〕

△源氏▽

月もいみしくあかければいとはしたなきこゝちして 三才5  
くるまの中はつかしくはしたなきこゝちしなから 三才10

はじめ(始)

△源氏▽

むめかえの色つきそめしはしめより冬草かれはつる： 六才10

はしら(柱)

△源氏▽

つねにより居つるはしらのあらゝしきか 三才11

わするなよあさまのはしらかはらすは 三才4

はた(端)

△平家・日ボ▽

河のはたにおりてつくゝとこしかたをみれば 二才5

はつか(二十日)

△源氏▽

ころは神な月の廿日あまりなれば 三才9

はつか・しき(恥)〔形〕

△源氏▽

おもひつゝくるにはつかしきこともおほかり 三才1

…とおもふにはつかしくもたのもしくもなりぬ 六才2

くるまの中はつかしくはしたなきこゝちしなから 三才10

…木すゑたにそゝろにはつかしくみまはされて 二才9

仏の御心の中はつかしけれと 二才2

はて(果)

△源氏▽

又なりゆかんはていかゝ 三才8

はては山ちにまよひぬるそすへきかたなきや 八才10

おもひくちにしてはてはうつゝ心もあらずあくかれ： 二才4

はて(果)〔下二〕

△源氏▽

月ころわつらひ給けるかつるにきえはて給にければ 四才7

きえはてんけふりのちのくもをたに 三才8

こゝろの中はかりにてくたしはてぬるはいとかひなし 三才10  
身をうき草にあくかれし心もこりはてぬるにや 三才5

心ならずも夢のかよひちたえ果ぬへし 二才8

いまとちめはてつるいのちなれば 九才3

たゝすちになきになしはてつる身なれば 八才4

いつはりにさへならひはてにけることもあるにや 二才8

つゐにいかになりはてんとすらんと心ほそく 四才6

同じ世ともおほえぬまでへたゝりはてにければ 二才9

かゝるわたりをさへへたてはてぬれば 二才9

いたくよはりはてにければ松かせのあらゝしきを 九才5

さるへき人みなわたりはてぬれと人々もこしやむまと 二才4

かゝるよもきかそまにくちはつへき契こそは 三才6

おとろへはつる身もわれかのこゝちのみして 二才10

色つきそめしはしめより冬草かれはつるまで 六才10

↓くれはつる(二例)

いとせめてわひはつるなくさみにさそふ水たにあらは 三才6

はなやかに(華)〔副〕 △源氏▽

さきはなやかにおひてこせんなどこゝしくみゆる 三才6

はなれ(離)〔下二〕 △源氏▽

たちはなれなんはさすかに心ほそくて 三才1

さすかひたみちにふりはなれなむみやこのなこりも 二才4

みやるもいとはなれまうきあはらやののきならん 三才1

はべる(侍)〔ラ変〕 △源氏▽

ひらのたかねやひえの山なとに侍るといふをきくに 三才5

はまちどり (浜千鳥) △古今▽

はま千とりむら／＼にとひわたりて 一七ウ 8

はまなのうら (浜名浦) 一六ウ 1

はまなのうらそおもしるきところなりける △源氏▽

はや (早) (副) 二ウ 5

時雨しぬへしはやかへり給へ △源氏▽

はや山ふかく入なんとうちもやすまぬまゝに ハウ 5

はやき (早) (形) △源氏▽

なけきつゝ身をはやきせのそことたに セオ 11

ちいさくかきつくれとめはやき山かつもやと 二ウ 2

はら (原) △源氏▽

うしろはまつはらにてまへにおほきなる川 一六ウ 10

すみたかはらならねは 一七ウ 3

はる (春) △源氏▽

春ののとかかなるに 六オ 7

はるか・なり (遙) (形動) △源氏▽

人をみやまのはるかならねは 三オ 11

にし山のふもとなれはいとはるか成に 八オ 8

りやうしゆせんの雲井はるかに心を送るしるへとそ 二ウ 11

いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらんと 一七オ 10

みやこいてゝはるかになりぬれは 一八オ 11

はるけき (遙) (形) △源氏▽

いしふみかきたえてはるけきなかとなりにけるかな 三オ 1

とをつあふみとかやきくもはるけき道をわけて 一五オ 9

はるばる (遙々) (副) △源氏▽

はる／＼きぬとなけきけんも 一八オ 9

いつくに野も山もはる／＼とゆくを 一六ウ 8

はる／＼とおひつゝきたる松のこたちなど 一六ウ 3

はれ (晴) (下二) △源氏▽

日たくるまゝにあめゆゝしくはれてしるき雲おほかる 三ウ 4

ひ

ひ (火) △源氏▽

いてつるしやうし口より火のひかりのなをほのかに セオ 5

↓ともしび (三例)

ひ (日) △源氏▽

風もいとすさまじき日 五ウ 3

くたるへき日にもなりぬ 一五ウ 8

京に入日しもあめふりいてゝ 三オ 7

日たくるまゝにあめゆゝしくはれて 三ウ 3

月日にそへてたへしのふへきゝちもせず 六オ 2

ひえのやま (比叡山) △源氏▽

ひらのたかねやひえの山などに侍る 三ウ 5

ひかげ (日影) △源氏▽

日かけもうららかにてとゝこほる所もなかりけるを 二ウ 10

ひかず (日数) △源氏▽

おほつかなさのならばぬ日かすのへたつるも 三オ 8

なか／＼きこえんかたなくて日かすふるいふせさを 四ウ 2

夢ちをたとるやうにて日かすふるまゝに

日かすふるまゝにみやこのかたのみ恋しく

過ぎつる日かすのほとなきに

こよなく日かすのすくるもこひしきこゝちするそ

日かすもうららかにてとゝこほる所もなかりけるを

ひかへ(控)〔下二〕

手をひかへてみちひくなさけのふかさそ

ひかり(光)

月のひかりまちいてぬれば

さとわかぬひかりにもならひぬへきこゝちするは

山のはちかきひかりのほのかにみゆるは

ともし火の残りて心ほそき光なるに

火のひかりのなをほのかにみゆるに

外なるともし火のひかりなれば

いさよひのひかり待いてゝ

あり明の光もいと心ほそく

ひ・き(引)〔四〕

おなしくそのあたりまでみち引たまひてんや鬮

手をはかへてみちひくなさけのふかさそ

なくくかとをひきいつるおりしも

ひきたて(引立)〔下二〕

つまとは引たてつれとかとちかくほそき川のなかれ：三才4

ひきひるげ(引広)〔下二〕

御ふみとてとりいたるも：ひきひるけたれば

ひきよ・せ(引寄)〔下二〕

すゝりの：有けるかかたはらにみゆるを引よせて

ひきわ・くる(引分)〔下二〕

かみを引わくるほとそさすかそゝろおそろしかりける

ひごろ(日比)

たゝいまの空のあはれにひごろのをこたりをとりそへ

日比のつらさはみなわすられぬるも

日ころふりつるあめのなこりに

暮はつる空のけしきも日ころにこえて心ほそくなし

日ころふれととひくる人もなく心ほそきまゝに

ひさ・し(久)(形)

われよりはひさしかるへきあとなれと鬮

ひたちのみや(常陸宮)

かのひたちのみやの御すまる思ひいてらるゝに

ひたみちに(直道)〔副〕

さすかひたみちにふりはなれなむみやこのなこりも

ひと

いるかたしたふ人の御さまそことたかひておはし：鬮

立よる人の御おもかけはしも

人二三人はかりして物かたりなとするに

夜もいたく更ぬとて人はみなねぬれと

人はみな何心なくね入ぬる程に

人やおとろかんとゆゝしくおそろしけれと

三才9

△源氏▽

七才7

△今昔・日杵▽

七才2

△源氏▽

三才9

三才4

三才2

三才6

二才1

△源氏▽

三才9

△源氏▽

五才7

△源氏▽

二五才4

△源氏▽

五才8

五才9

五才3

五才4

六才8

六才9



かくても人にやみつけられんとそらおそろしければ 七ウ7  
 かたはらなる人うちみしるきたにせず  
 いとあやしととかむる人もあれは 八ウ2  
 これやかつらのさとの人ならんとみゆるに 九オ9  
 御まへは人のてをにけいて給か 九オ10  
 これは人をうらむるにもあらず 九ウ6  
 みおとろく人おほかるらめなれとも… 一〇オ5  
 山ちはなを人のこゝちなりけるか 一〇オ7  
 うき世の人のつらきいつはりにさへならひはてにける 二ウ7  
 うらみきこゆる人なりけり 一三オ8  
 とひくる人もなく心ほそきまゝに 一四オ1  
 人はこゝまておもひやはよる 一四ウ5  
 たのむへきことほりもあさからぬひとしも 一五オ9  
 物さはかしくもあらずすまさん人はみぬへきさま… 一五ウ3  
 人はみなおきさはけと 一五ウ11  
 けちかくとふへき人もなければ 一六ウ7  
 人のゆくにまかせて夢ちをたとるやうにて 一六ウ8  
 ゆきゝの人あつまりて 一七オ1  
 さるへき人みなわたりはてぬれと 一七オ4  
 いとおきなくよりはくゝみし人はかなくもみすてられ 一九ウ6  
 人のおもふらんことゝものさはかしく… 一九ウ10  
 たゝいまはかゝしくうちそふ人もなくて 二〇オ3  
 さまゝとむる人もおほかりければ 二〇オ4  
 みる人も心くるしくとて 二〇オ5

さすかに心ほそくて人見わくへくもあらず 二〇ウ2  
 かゝみやまをみやまのはるかならねは 二〇オ11  
 まことにかの人をみやこはちかき心のみはかりにて 三ウ1  
 しのはぬ人はあはれともみし 三オ10  
 うき人しもあやにくなるこゝちすれば 三オ4  
 おい人はうち見えてこよなくをこたりさまにみゆるも 三オ2  
 かつらのさと人のなさけにをとらめやは 一〇オ6  
 たのもし人 四オ5・九オ6  
 とのゐ人 七ウ5・9  
 これはなに人ぞ 九オ10  
 みちゆき人もこゝもとはいとあやしととかむる 八ウ2  
 みやこ人さへおもひのほかになつねしるたよりありて 二〇オ10  
 山人のめにもとかめぬまゝに 八オ5  
 ひといに(偏)〔副〕 八源氏 〆  
 ひとひにほいとけにしかは一すちうちもうれしく 二〇ウ1  
 思ひなりぬ 二〇ウ1  
 ひとかたならぬ(一方)〔連〕 八源氏 〆  
 ひとかたならぬ恨もなげきもせきやるかたなき… 二ウ1  
 一かたならぬねさめのもよほしなれば 一五オ3  
 ひとしれず(人知)〔連〕 八源氏 〆  
 人しれすちきりしなかのこの葉を 三オ4  
 れいの人しれすなかみちかきそらにたに 三ウ8  
 鐘のひゝきに人しれすたのみをかくるも 四ウ4  
 そのほとを人しれすまづに 七ウ10

- 人しれずかきなかせと  
 人しれずなみをわけし事など  
 かの人しれすうらみきこゆる人なりけり  
 人しれすころはかりにはさてもいかに：行系にかと  
 人しれぬ心の中のみさまくくろしくて  
 ひとづくなに(人少)〔副〕  
 このたひはいと人すくなに心ほそけれと  
 ひとすちに(一筋)〔副〕  
 たゝ一すちになきになしはてつる身なれば  
 一すちにうちもうれしく思ひなりぬ  
 ひとたび(一度)  
 いま一たひそれとはかりも見をくりきこゆるは  
 ひとつ(一)  
 はしもたゝひとつそみゆる  
 ひとびと(人々)  
 ともなる人々：なといへは  
 人々もこしやむまと待いつるほと  
 とまる人々の行す系をおほつかなく  
 ひとへ(一重)  
 たゝしやうしひとへをへたてたる居ところなれば  
 ひとめ(人目)  
 きた山のおもとゝいふ所なれば人めしけからず  
 よもなかめしな人めもるとて幽  
 ひとよ(一夜)
- 二ウ3  
 三オ7  
 三オ8  
 三オ1  
 二オ2  
 三ウ6  
 二ウ4  
 二ウ1  
 三オ11  
 二オ6  
 二ウ5  
 二ウ4  
 二ウ2  
 六ウ11  
 二オ2  
 三ウ9
- 一夜はかりのとたえもあるましきやうにならひにける 一ウ3  
 ひとり(一人・独) 八源氏V  
 たゝひとりみいたしたるあれたる庭の秋の露 一オ5  
 山ちをたゝひとり行こゝち 八オ4  
 とふのすかこもにたゝひとりうちふしたれと 三ウ8  
 ひとわるき(人悪)〔形〕 八源氏V  
 …のつらきはみなわすられぬるも人わるき心の程や幽 三ウ4  
 ひなのながち(鄙長道) 八新古今V  
 さすかならばぬひなのなちにおとるへはつる身も 二ウ10  
 ひびき(響) 八源氏V  
 うちすくるかねのひゝきをつくくときふしたるも 二オ1  
 うちぬるほととの鐘のひゝきに人しれすたのみをかくる 四ウ4  
 なみのをとままくらのもとにおちくるひゝきには 二オ7  
 ひま(隙) 八源氏V  
 すいかいのおれのこりたるひまにたちかくるゝも 五オ6  
 ひめもすに(終日)〔副〕 八宇治拾遺・日ボV  
 ひるはひめもすになかめよるは夜すからものをのみ… 二オ5  
 ひらのたかね(比良高嶺) 八千載V八源氏V  
 ひらのたかねやひえの山なとに侍る幽 三ウ5  
 ひる(昼) 八源氏V  
 ひるよういしつるはきみはこのふたなどの 六ウ11  
 ひるはひめもすになかめよるは夜すからものをのみ… 二オ5  
 ひろげ(広)〔下二〕 八源氏V  
 御ふみとてとりいれたるも…ひきひろけたれば 三オ9

ひろびろと〔広々〕〔副〕

△源氏▽

すのまたとかやひろくとおひたゝしき河あり

一七〇一

ふ

ふ(生)

△源氏▽

露のいのちの庭のあさちふ露

一四〇一

ふえ(笛)

△源氏▽

いつくにかあらんかすかに笛のをとの聞えくる

一四〇一

ふかき(深)〔形〕

△源氏▽

夜もまたふかきに

七〇五

はや山ふかく入なん露

八〇五

―よぶかく(三例)

△源氏▽

ふかさ(深)

△源氏▽

手をひかへてみちひくなさけのふかさそ仏の御しるへ

二〇〇二

ふき(吹)〔四〕

△源氏▽

おりしも風さへ吹てものははかしくなりければ

三〇二

あらしふげとはおもはさりしを露

三〇五

ふきかよひ(吹通)〔四〕

△源氏▽

ほけ三まいのみねの松かせに吹かよひ

二〇一〇

ふきゆく(吹行)〔四〕

△新古今▽

かせさへましりてふき行も

三〇一

ふけ〔下二〕

△源氏▽

夜もいたく更ぬとて人はみなねぬれと露

五〇四

ふし(節)

△源氏▽

うらめしからぬそのふしもなし露

三〇三

ふし(臥)〔四〕

△源氏▽

こゝにふし給へ露

六〇五

いたつらものにてふしたりしを

二〇一〇

かへりなんともいはてふしぬ

六〇七

もとのやうにいりてふしぬれと

七〇七

とふのすかこもにたゝひとりうちふしたれと

三〇九

おきふしなかめわふれと

二〇七

かねのひゝきををつくゝときゝふしたるも

二〇一

さすかめもあはずみしるきふしたるに

五〇二

ふししば(伏柴)

△千載・日杵▽

心まよひにはふし柴のとたにおもひしらさりける露

一〇八

ふじのやま(富士山)

△源氏▽

ふしの山はたゝこゝもとにとそみゆる

一九〇一

ふしぶし(節々)

△源氏▽

おりゝのあはれしのひかたきふしゝをうちとけて

六〇一

ふた(蓋)

△源氏▽

はこのふたなどのほとなく手にさはるもいとうれしく

七〇一

そきおとしぬれはこのふたにうちいれて

七〇三

文かきつくるすゝりのふたもせて有けるか

七〇六

ふたがゝる(塞)〔四〕

△源氏▽

きとむねふたかる心ちするを

二〇〇三

ふたば(二葉)

△源氏▽

ふたはよりまいりなれにしかは

二〇二

ふで

△源氏▽

すみつき筆のなかれもいとみところあれと

三才11

外なるともし火のひかりなれば筆のたちとも見えす

七才10

ふね(舟)

△源氏▽

ゆきゝの人あつまりて舟をやすめすさしかへるほと

むつかしけなるものともを舟にとりいれなとする程

とにかくにさはりかちなるあしわけ舟にて△

ふはのせき(不破関)

△万葉・新千載▽

ふはのせきになりてゆきたゝふりにふりくるに

やかてとゝむるふはのせきもり△

ふみ(文)

△源氏▽

御ふみとてとりいれたるもむねうちさはきて

この御文をつくゝとみるに

かの御文ともとりいてゝみれば

かきをきつる文なともとりくしてをかんとするほと

文かきつくるすゝりのふたもせて有けるか

ともにふみともあまたあるをみれば

みちのくのつほのいしふみかきたえて△

ふもと(麓)

△源氏▽

きた山のふもとゝいふ所なれば

にし山のふもとなればいとほるか成に

あらしの山のふもとにちかつく程

ふゆ(氷)

△古今▽

色つきそめしはしめより冬草かれはつるまで

六才10

ふらう(不牢固)

△法華經▽

せかいふらうことあるところをしるておもひつゝ△四才3

ふり(降)

△源氏▽

ゆきたゝふりにふりくるにかせさへましりて

ふりみふらすみきためなきころの空のけしきは

日ころふりつるあめのなこりにたちまふ雲間の

かゝるおほあめにふられてこの山なかへはいて給△九才1

ふり(古)(上一)

△源氏▽

あまのしわざにとしふりにけるしほかまどもの

ふりいで(降出)(下二)

△源氏▽

よなかよりふりいてつるあめのあくるまゝに

あめかきくらしふりいてゝ

あめふりいてゝかゝみの山もくもりてみゆるを

この程にてはあめふりいてたりしぞかしと思ひ△三才7

ふりくる(降来)(力変)

△源氏▽

ゆきたゝふりにふりくるにかせさへましりてふき行も三才1

ふりそひ(降副)(四)

△源氏▽

涙のあめさへふりそひてこしかた行ききも見えず

ふりはなれ(振離)(下二)

△源氏▽

さすかひたみちにふりはなれなむみやこのなこりも

ふりまさり(降増)(四)

△源氏▽

雨ゆゝしくふりまさりて

ふる(経)(下二)

△源氏▽

たえてほとふるおほつかなさの

三才8

またほとふるもことほりなから

四才8

日かすふるいふせきをかれくそおとろかし給つる

四ウ2

夢ちをたどるやうにて日かすふるまゝに

一六ウ9

心とまらず日かすふるまゝに

一九才4

日ころふれととひくる人もなく心ほそきまゝに

一四才1

ふるさと(故郷)

△源氏▽

うきふるさとはいとゝわすられぬるにや

二ウ11

ふるさとよりさかのわたりまては

八才10

ふるさとのにはもせにうきをせしあきかせは

一〇ウ8

まちなれしふるさとをたにはさりし

一四ウ4

又ふるさとにたちかへるにも

一四ウ8

すみわひてたちわかれぬるふるさとも

一六ウ4

へ

へ(方) ↓ゆくへ(三例)

へ(重)

△源氏▽

たしやうしひとへをへたてたる居ころなれば

六ウ11

雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えず

八ウ8

へ(経) [下二] ↓ふる

へ(格助)

△源氏▽

つゐにこなたかなたへゆきわかれ給ほと

一三ウ2

なにと又みやこへかへるらむとあちきなくものうし

一〇才8

なにゆへ…この山なかへはいて給ぬるそ

九ウ2

我かたへもかへらすなりぬ

六ウ5

へう「助動べくノ音便形」

△源氏▽

かほしるきすいしんなとまかふへうもあらねは

一三才9

へし「助動」

△源氏▽

時雨しぬへしはやかへり給

二ウ5

心ならずも夢のかよひちたえ果ぬへし

一九才8

きえかへりまたはくへしとおもひきや

一四ウ10

なにくたふへしとおおほえぬ

一六才5

よのためしにもなりぬへくおもひのほかにさすらふる

二才6

いかにしてたへしのふへくもあらず

一三ウ5

へたてともかけとまるへくもあらず

一八ウ8

さすかに心ほそくて人見わくへくもあらず

二ウ2

なに心とまるへくもあらぬをみやるも

二ウ11

さとわかぬひかりにもならひぬへきこちする

五才10

た今もいてぬへきこちして

七ウ2

すまさん人はみぬへきさまなる

一五ウ3

はては山ちにまよひぬるそすへきかたなきや

八ウ11

宵ねすへきともなけれは

一三ウ7

ともすへきものともなとこれかれとさためて

二〇才5

さるは月日にそへてたへしのふへきこちもせす

六才3

このやまのおくにたつぬへきことありて

九ウ8

行ききもえしらすしぬへき心地さへすれば

九ウ10

のちのおよとかのたのむへきことはりもあさからぬ

一五才8

くたるへき日にもなりぬ

一五ウ8

さりとてとまるへきにもあらねは出ぬるみちすから

一六才3

けちかくとふへき人もなければ

一六ウ7

ことふへきみやとりも見えず

一七ウ4

とにかくにさはるへきこゝ地もせねは

三〇オ1

これかれとさためてのほるへきになりぬ

三〇オ6

かゝるよもきかそまにくちはつへき契こそは詠

三三オ6

いとこほりとちてさはりかちにあやうかるへきを詠

三〇オ2

われよりはひさしかるへきあとなれと詠

三三オ9

さるへきつゝてもなくて因

三三ウ6

からくしてさるへき人みなわたりはてぬれと

一七オ4

ともかくもなりなはわつらはしかるへければ

三三オ2

へだたら(隔)〔四〕

△源氏▽

すこしもへたゝらすみわたさるゝほどの道なれば

八オ10

へだたりは(隔果)〔下二〕

二ウ9

同じ世とおほえぬまでにへたゝりはてにければ

二ウ9

へだたりゆ(隔行)〔四〕

△源氏▽

かすみとそれとたに見えずへたゝり行もそゝろに… 一六ウ1

へだ(隔)〔下二〕

△源氏▽

たゞしやうしひとへをへたてたる居ところなれば 六ウ11

はかなけなるあしはかりにてむすひをけるへたてとも 一六ウ7

ならはぬ日かすのへたつるもいまはかくにこそと 二オ9

へだては(隔果)〔下二〕

一七オ9

かゝるわたりをさへへたてはてぬれば詠

一七オ9

ほ

ほい(本意)

△源氏▽

ひとひにほいとけにしかは一すちにうちもうれしく 二〇ウ1

ほう(二)〔反故〕

△宇津保▽△源氏▽

手ならひのほうこなとやりかへすつゝにて 六オ8

ほか(外)

△源氏▽

心の色もほかにはことなる心地していとみ所おほかる 二ウ10

外なるともし火のひかりなれば筆のたちとも見えず 七オ9

おもひのほかに 二〇オ10・二オ6

ほげざんまい(法華三昧)

△源氏▽

あきかせはほげ三まいのみねの松かせに吹かよひ 二〇ウ9

ほそき〔細〕〔形〕

△源氏▽

かとちかくほそき川のなかれたる 三オ5

↓二ころほそき〔四例〕・二ころほそく〔一〇例〕

…とおもひなりぬるよの心ほそそなにとへても 二オ10

ほど(程)

△源氏▽

あさましくはかなかりける契りの程をなとかくしも… 一オ10

せきもりのうちぬる程をたいたくもたとらす… 一ウ2

たえてほどふるおほつかなさの 二オ8

みさすやうにてたつ程… 三オ3

帰てもいとくるしければうちやすみたるほど 三オ8

人わろき心の程やとまたうちをかれて詠 三ウ4

そのほとのみきれにやまたほとふるもことほりなか

あはれしるこゝろのほとなかくきこえんかたなくて 四ウ1

四オ8・8

れいのうちぬるほどの鐘のひゞきに  
四ウ4

れいのまつほととすきぬるはいかなるにかと  
四ウ11

うちとけて聞えかはしけることのつもりにけるほとも  
六ウ1

かみを引わくるほととそさすかそゝろおそろしかりける  
七オ2

かきをきつる文なともとりくしてをかんとするほと  
七オ5

そのほとを人しれすまつに  
七ウ10

あくるまゝにしほゝとぬるゝほとになりぬ  
八オ9

すこしもへたゝらすみわたさるゝほととの道なれば  
八オ11

夜もやうゝほのゝとすするほとになりぬれば  
八ウ1

あらしの山のみもとにちかつかつく程雨ゆゝしくふり…  
八ウ7

さまゝにたすけあつかはるゝほと  
一〇オ7

いまはとうちやすむほととすへてこゝちもうせて  
一〇オ8

おもひいつるほとにもなみはさはきけり  
一〇オ9

つるにこなたかなたへゆきわかれ給ほと  
一三ウ3

みちのほととゝまる所々おほかれと  
一六ウ6

舟をやすめすさしかへるほとといとゝこゝろせう…  
一七オ2

人々もこしやむまと待いつるほと河のはたにおりゐて  
一七オ5

舟にとりいれなとする程何事にかゆゝしくあらそひて  
一七オ7

かへらんほとをたにしらぬ心もとなきに  
一七ウ1

たひのほとも思ひしられされと  
二〇ウ9

かきくらす雪まをしはしまつ程そ  
二〇オ5

この程にてはあめふりいてたりしそかし  
二〇オ8

こゝ地れいならぬことありて命もあやうきほとなるを  
二〇オ1

つねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆるほとに  
六ウ3

人はみな何心なくね入ぬる程にやをらすへりいれは  
六ウ8  
くれはつるほとにゆきつきたれば  
二ウ9

ほとけ  
△源氏▽

仏の御心の中はつかしけれと  
二ウ2

仏などの見え給つるにやとおもふに  
六オ1

仏の御するへにやとまてうれしくありかたかりける  
二〇オ2

ほどなき(程無)〔形〕  
△源氏▽

程なきまとのしとみたつものもおろさす  
二〇オ6

はこのふたなどのほととなく手にさはるもいとうれしく  
七オ1

ほととなくをくりつけてかへりぬ  
二〇オ3

ほととなくあふさか山にもなりぬ  
一六オ5

過ぎつる日かすのほととなき(なき\*)にとまる人々の  
一七ウ2

ほのかなり(仄)〔形動〕  
△源氏▽

山のはちかきひかりのほのかにみゆるは七日の月…  
五ウ7

しやうし口より火のひかりのなをほのかにみゆるに  
七オ5

ゆふつく夜のかけほのかなるにをしあけたならねと  
二〇オ3

ほのぼのと(仄々)〔副〕  
△源氏▽

夜もやうゝほのゝとすするほとになりぬれば  
八ウ1

ほふこんがうるん(法金剛院)

ほうこんかう院の紅葉このころそさかりと見えて  
二ウ7

ほふりん(法輪)

からうしてほふりんのまへすきぬれと  
八ウ9

ほんご(反故)  
△紫式部▽

何となくつもりにける手ならひのほんごなとやり…  
六オ8

## ま

ま(間)

夢うつともわきかたかりし宵のまより

△源氏▽

一ウ2

をく露のいのちまつまのかりのいほに國

一四才10

あめのなごりにたちまふ雲間のゆふつく夜のかけ

三才2

かきくらす雪まをしはしまつ程國

三才5

まう・き〔連・形〕

△源氏▽

みやるもいとはなれまうきあはらやののきならんと

三才1

まう・で〔語〕〔下二〕

△源氏▽

にはかにうつまきにまうてゝんとおもひ立ぬるも國

二ウ1

まか・せ〔任〕〔下二〕

△源氏▽

あしのゆくにまかせてはや山ふかく入なんと

八ウ5

人のゆくにまかせて夢ちをたとるやうにて

一六ウ8

まが・ひ〔紛〕〔四〕

△源氏▽

かの御あたりなりしねにまかひたるこゝちするにも

一四ウ2

雲かくれたりつる月のうきくもまかはすなりながら

五ウ6

かほしるきすいしんなどまかふへうもあらねは

一三才9

まぎれ〔紛〕

△源氏▽

そのほとまぎれにやまたほとふるもことはりながら

四才8

まくら〔枕〕

△源氏▽

まくらにちかきかねのをとも

四才1

なみのをとままくらのもとにおちくるひゝきには

一九才6

みしかき夜半の草まくら國

一三ウ10

まことに〔誠〕〔副〕

△源氏▽

まことにかの人をみやこはちかき心のみはかりにて

三ウ1

まさり〔増・勝〕〔四〕

△源氏▽

雨ゆゝしくふりまさりて

八ウ8

いとゝなみたおちまさりてしのひかたく

一七才11

こゝもかしこも猶あれまさりたる心ちして

三ウ10

いひしにたかふつらさはしもありしにまさる心地する

四才9

水のまさるにやつねよりもをとするこゝちするにも

三才5

心つくしなることのみまされは

六才4

まし〔助動〕

△源氏▽

かうまては思ひしらすそすきましなと思ひつゝくる國

四ウ9

みやことりあとなきなみにねをやなかまし國

一七ウ6

こよひはつれなくてやみなましなと思ひみたるゝに國

四ウ11

ありしなからの心ならましかはうきたる身のとかも國

四ウ8

みやこのともにもうちくしたる身ならましかは國

一八才1

かゝらぬところにてやみなましかはいかにせまし

二ウ7・7

ましき〔助動〕

△源氏▽

一夜はかりのとたえもあるましきやうにならひにける

一ウ4

まじり〔交〕〔四〕

△源氏▽

ゆきたゝふりにふりくるにかせさへましりてふき行も

三才1

ま・する〔交〕〔下二〕

△源氏▽

すへて思ひますることなきこゝろのうちならんかし

三才6



また(又)

△源氏▽

人わるき心の程やとまたうちをかれて

二ウ5

そのほとのみまきれにやまたほとふるもことわりなから

四ウ8

いとくらきに夜もまたふかきにとのぬ人さへ…

七ウ5

人のてをにけいて給かまたくちるんなどをし給たり

九ウ11

けるにか

人をうらむるにもあらずまたくちろんとかやをも…

九ウ6

かくてしもやとて又ふるさとにたちかへるにも

一四ウ8

なにと又みやこへかへるらむとあちきなくものうし

三ウ7

こゝとでも又たちかへらん事もかたければ

三ウ8

またきてなるゝおりもこそあれ

三ウ5

またかきくらす心地しける

三ウ3

したはぬこゝちなれは又なりゆかんはていかゝ

三ウ8

きえかへりまたはくへしとおもひきや

一四ウ10

まちいで(待出)〔下二〕

△源氏▽

よのともとならひにける月のひかりまちいてぬれば

一ウ4

いさよひのひかり待いてゝ

一四ウ6

人々もこしやむまと待いつるほと河のはたにおりゐて

一七ウ4

まちとる(待取)〔四〕

△源氏▽

まちとるところにもあやしくものくるをしきものゝ…

一〇ウ4

まちなれ(待慣)〔下二〕

△新後撰▽

まちなれしふるさとをたにとはざりし

一四ウ4

まつ(松)

△源氏▽

松にかゝれる枝心の色もほかにはなる心地して

二ウ10

まつならぬ木すゑたにそゝろにはつかしくみまはされ

一四ウ8

はるゝとおひつゝきたる松のこたちなと

一ウ3

まつ(待)〔四〕

△源氏▽

れいのまつほとすきぬるはいかなるにかと

一四ウ11

そのほとを人しれすまつに

七ウ11

をく露のいのちまつまのかりのいほに

一四ウ10

あくるをまつもしつ心なく

一五ウ5

かきくらす雪まをしはしまつ程そ

三ウ5

まつ(先)〔副〕

△源氏▽

まつかきくらす涙に月のかけも見えずとて

五ウ11

まつかきくらす涙のみさきにたちて

一六ウ4

まつかせ(松風)

△源氏▽

松かせのあらゝしきをたのもし人にて

九ウ5

ほけ三まいのみねの松かせに吹かよひ

一〇ウ10

まつばら(松原)

△源氏▽

うしろはまつばらにてまへにはおほきなる川…

一六ウ10

まで(格助)

△源氏▽

色つきそめしはしめより冬草かれはつるまで

六ウ11

おなしくそのあたりまでみち引たまひてんや

一〇ウ1

仏の御しるへにやとまでうれしくありかたかりける

一〇ウ3

人はこゝまでおもひやはよる

一四ウ5

かしかましくおそろしきまでののしりあひたり

一七ウ3

たれはかりかうまでしたはむとあはれもあさからす

三ウ4

同し世ともおほえぬまでにてへたゝりはてにければ

二ウ9

うきたる身のとかもかうまては思ひしらすそ： 闇 四ウ 8  
 ふるさとよりさかのわたりまてはすこしもへたゝらす 八オ 10  
 露のいのちをもかけてけふまてもなからへてけるを 二ウ 7  
 まど(窓) 〱源氏〱

程なきまとのしとみたつものもおろさす 二四オ 6  
 つきせぬ涙のしつくはまとうつあめよりもなり 二五オ 6  
 まとかなる(円)〔形動〕 〱訓点・日ボ〱  
 まとかなる月かけに所からあはれすくなからす 二四オ 8

まど・ひ(惑)〔四〕 〱源氏〱

山ちさへまとひてこしかたもおほえず行さきも： 闇 九ウ 9  
 なかき夜のまとひをおもふにも 二一オ 9  
 さもうちつけにあやにくなりし心まとひには 一ウ 7

いかにおほしまとふらんと 闇 四オ 10  
 まどろ・ま(微睡)〔四〕 〱源氏〱

露まとるまれぬにやをらおきいてゝみるに 五ウ 5  
 まはし(廻)〔四〕 〱源氏〱

いとくおろしまはして：物かたりなとするに 五ウ 3  
 そゝろにはつかしくみまはされて 二四ウ 9

まはりはて(廻果)〔下二〕↓よりはりはて 二四ウ 9  
 いたくまはりはてにければ松かせのあらゝしきを： 九オ 5

ま・ふ(舞)〔四〕 〱源氏〱

あめのなこりにたちまふ雲間のゆふつく夜のかけ 二三オ 2  
 まへ(前) 〱源氏〱

からうしてほうりんのまへすきぬれと 八ウ 10

まへにはおほきなる川のとかなななれたり 一八ウ 10  
 風になひくけふりのすゑもゆめのまへにあはれなれ 一九ウ 1  
 しはゝ御まへにともなる人々：なといへは 二ウ 5  
 あな心う御まへは人のてをにけいて給か 闇 九オ 10  
 まほし(助動) 〱源氏〱

松のこたちなと絵にかゝまほしくそみゆる 一八ウ 4  
 かくとたに聞えさせまほしけれととはすかたりも： 二三オ 4  
 ままに(随)〔副〕 〱源氏〱

山人のめにもとかめぬまゝにあやしくものくるをしき 八オ 5  
 ふりいてつるあめのおくるまゝに：ぬるゝほとになり 八オ 9

うちもやすまぬまゝにくるしくたへかたきこと： 八ウ 6  
 とひくる人もなく心ほそきまゝにきやうつとてに持： 四オ 1  
 夢ちをたるとるやうにて日かすふるまゝにさすか： 一六ウ 9

日かすふるまゝにみやこのかたのみ恋しく 一六ウ 9  
 日たくるまゝにあめゆゝしくはれて 二ウ 3

まよ・ひ(迷)〔四〕 〱源氏〱

はては山ちにまよひぬるそすへきかたなきや 八ウ 10  
 かの御あたりなりしねにまよひたるこゝろするにも 二四ウ 2

さもうちつけにあやにくなりし心まよひには 一ウ 7  
 かきみたすこゝろまよひにことの葉のつゝきも見えず 三ウ 1

そことたにしらすまよはんあとそかなしき 七ウ 1  
 まるりな・れ(参慣)〔下二〕 〱源氏〱

ふたはよりまいりなれにしかはすくれてたのもしき 二ウ 3  
 心ちして

み

身(身)

しきりに身のありさまをたつぬれば

九ウ5

いまさら身のうさもやるかたなく恋しければ

四ウ10

うきたる身のとかもかうまでは思ひしらす<sup>○</sup>

四ウ8

あたる身のゆくゑつるいかになりはてんとす<sup>○</sup>

四ウ6

おもひのほかにさすらふる身のゆくゑををつから<sup>○</sup>

一才6

さてもいかにさすらふる身の行系にかと<sup>○</sup>

一才2

なけきつゝ身をはやきせのそことたにしらす<sup>○</sup>

七才11

身をもなけてんとおもひけるにや<sup>○</sup>

七ウ2

たゝ一すちになきになしはてつる身なれば

八ウ4

身のぬれとをりたること伊勢のあまにもこえたり

九才3

いかにせましとおもひいつるにそみもゆるこゝちし

一〇ウ8

ける

あらぬすまゐるに身をかへたるとおもひなして<sup>○</sup>

一五ウ6

かせのをとすさましく身にしみとをる心ちするに

一五ウ11

おとろへはつる身もわれかのこゝちのみしてみのを

二六ウ10・10

はりのさかひにもなりぬ

一八才1

みやこのともにもうちくしたる身ならましかは<sup>○</sup>

三才5

そのゝちは身をうき草にあくかれし心もこりはて<sup>○</sup>

三才7

身をも世をもおもひしつむれと

↓うき身(二例)

み(見)〔上二〕

△源氏▽

みし夜のかきりもこよひそかしと思ひいつるに<sup>○</sup>

五ウ8

おもかけそみし月かけは

二〇ウ10

る中のすまゐるもみつゝなくさみ給へかし<sup>○</sup>

一五ウ2

すまさん人はみぬへきさまなる<sup>○</sup>

一五ウ3

しのはぬ人はあはれともみし<sup>○</sup>

三才10

かゝみやま人をみやまのはるかならねは<sup>○</sup>

二才11

いといたうかへりみかちにこゝろほそし

一三ウ3

この御文をつくゝとみるにも<sup>○</sup>

三ウ3

やをらおきいてゝみるに

五ウ5

今はとみるはあはれあさからぬなかに

六ウ2

さてこの所をみるに

一〇ウ2

わかれたたえぬなみたとそみる<sup>○</sup>

一六才9

かきつゝけておこせたるをみるに

一九ウ9

ねのみなかるゝをみる人も心くるしくとて

三才5

そゝろにみるもあわれなり

三才2

かの御文ともをとりにてゝみれば

六才9

むかへの山をみれば

八ウ8

河のはたにおりゐてつくゝとこしかたをみれば

一七才5

みかはのくにやつはしといふ所をみれば

一八才5

おちつきところのさまをみれば

一八ウ5

ふみとものあまたあるをみれば

一九ウ6

みやこの山をかへりみればかすみにそれとたに見えず<sup>○</sup>

一六才11

み(御)〔接頭〕 ↓おん

私の御心の中はつかしけれと

△源氏▽

二ウ2

すてゝいてしわしのみやまの月ならて〽

二〇二

み〔接尾〕

△後撰▽

ふりみふらすみさためなきころの空のけしきは 三〇五・六

みいだし〔見出〕〔四〕

△源氏▽

たゝひとりみいたしたるあれたる庭の秋の露： 一〇五

見出したるけしきもいとおそろしくて 三〇四

みえ〔見〕〔下二〕

△源氏▽

紅葉このころそさかりと見えていとおもしろければ 二〇七

木々の紅葉色々に見えて 二〇四

おい人はうち見えてこよなくをこたりさまにみゆるも 三〇二

仏などの見え給つるにやとおもふに〽 六〇一

かはるけちめもみえぬものから 二〇四

ことの葉のつゝきも見えずなりぬれば 三〇二

かきくらす涙に月のかけも見えずとて 六〇一

外なるともし火のひかりなれば筆のたちとも見えす 七〇一〇

雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えず 八〇九

涙のあめさへふりそひてこしかた行ききも見えず 九〇二

みやこの山をかへりみればかすみにそれとたに見えず 一六〇一

すみたかはらならねはことゝふへきみやことりも見 一七〇四

えす

山のはちかきひかりのほのかにみゆるは七日の月： 五〇七

しやうし口より火のひかりのなをほのかにみゆるに 七〇六

すゝりのふたもせて有けるかかたはらにみゆるを 七〇七

これやかつらのさとの人ならんとみゆるに 九〇九

こせんなどことゝしくみゆるを  
はしもたゝひとつそみゆる

三〇七

六〇六

それかとみゆるくさ木もなし

一八〇八

松のこたちなと絵にかゝまほしくそみゆる

一八〇四

河の水さかさまになかるゝやうにみゆるなど

一八〇二

ふしの山はたゝこゝもとにとそみゆる

一八〇一

かゝみの山もくもりてみゆるを

二〇〇八

こよなくをこたりさまにみゆるも

三〇〇三

みおき〔見置〕〔四〕

△源氏▽

夢のやうにみをきし山ちをたゝひとり行こゝち

八〇〇三

みおくり〔見送〕〔四〕

△源氏▽

それとはかり見をくりきこゆるはいとうれしくも： 三〇一

みおどろく〔見驚〕〔四〕

△源氏▽

ものゝさまかなとみおどろく人おほかるらめなれとも 二〇〇五

みか〔三日〕

△源氏▽

三日はかりはとにかくにさはりしかとも

二〇〇一

みかはのくに〔三河国〕

△伊勢▽

みかはのくにやつはしといふ所をみれば

一八〇五

みさす〔見止〕〔四〕

△源氏▽

ものさはかしくなりければみさすやうにてたつ程 三〇二

みじかき〔短〕〔形〕

△源氏▽

はかなしなみしかき夜半の草まくら〽

一三〇四

みじろき〔身動〕〔四〕

△源氏▽

さすかめもあはすみしろきふしたるに 五〇一

五〇一

かたはらなる人うちみしるきたにせず

セウ 8

みす・て (見捨) [下二]

△源氏▽

はかなくもみすてられて心ほそかりつるおもひに

一ウ 6

みだす (乱) [四]

△源氏▽

れいのなか／＼かきみたすこゝろまよひに

三ウ 1

みだれ (乱) [下二]

△源氏▽

きり／＼すのこゑのみたれも一かたならぬねさめの… [五オ 3]

こよひはつれなくてやみなましなと思ひみたるゝに

四ウ 11

みだれおつる (乱落) [上二]

△源氏▽

心に乱れおつるなみたををさへて

一オ 8

みち (道)

△源氏▽

さるは心さす道もはか／＼しくもおほえず

八オ 1

すこしもへたゝらすみわたさるゝほどの道なれば

八オ 11

きくもはるけき道をわけて

一五オ 10

みちのほとめとゝまる所々おほかれと

一六ウ 6

みちもいとこほりとちてさはりかちにあやうかる… [四二オ 2]

↓なかみち (二例)

さすかひたまちにふりはなれなむみやこのなこりも [一五ウ 4]

みちすから (道一)

△源氏▽

出ぬるみちすからまつかきくらす涙のみさきにたちて [一六オ 4]

みちのく (陸奥)

△伊勢▽

みちのくのつほのいしふみかきたえて [二ウ 11]

みちのくにかみ (陸奥国紙)

△源氏▽

おしつゝみたるみちの国かみのかたはらに [七オ 8]

みちびき (導) [四]

△源氏▽

おなしくそのあたりまでみち引たまひてんや [二オ 1]

手をひかへてみちひくなさけのふかさそ [二オ 2]

みちゆきびと (道行人)

△万葉・平家・日杵▽

みちゆき人もこゝもとはいとあやしととかむる人も… [ハウ 1]

みつ

△源氏▽

水のまさるにやつねよりもをとするこゝちするにも [三オ 5]

この川に水の出たちし世 [三オ 7]

うきせをわけて中川の水 [三オ 10]

さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを [一五オ 7]

あるひは水にたふれいりなとするにも [一七オ 8]

この河の水さかさまになかるゝやうにみゆるなど [一九オ 2]

をとに聞しせきのし水もたえぬなみたとのみ思ひ… [一六オ 6]

こえわふるあふさかやまのやまみつは [一六オ 8]

みづうみ (湖)

△源氏▽

のとかなるみづうみのをちいたるけちめに [一八ウ 2]

みづから (自) [副]

△源氏▽

つれなきよのあはれさもみづからきこえあはせたく [四ウ 3]

さるへきつゝてもなくてみづからきこえさせす [二ウ 6]

みづくき (水茎)

△源氏▽

なみたをそふる水くきのあと [三ウ 7]

はかなき水くきのをのつからこゝろの行たよりも [二ウ 2]

みつけ (見付) [下二]

△源氏▽

かくても人によみつけれんとそらおそろしければ [セウ 7]

みどころ (見所)

△源氏▽

いとみ所おほかるに

二ウ11

すみつき筆のなかれもいとみどころあれと

三オ11

みな (皆) [副]

△源氏▽

日比のつらさはみなわすられぬるも

三ウ4

人はみなねぬれと

五ウ4

人はみな何心なくね入ぬる程に

六ウ8

人はみなおききはけと

一五ウ11

からくしてさるへき人みなわたりはてぬれと

一七オ4

あたりのくさもみななかれたるころなれはにや

一八オ7

みなと (港)

△拾遺▽

うみいとちかければみなとのなみこゝもとにきこえて一八ウ11

みな・れ (見慣) [下二]

△源氏▽

水にたふれいりなとするにもみなれすものおそろしき一七オ8

ゆかみたてたるすかたともみなれすめつらしき心ち

一七ウ11

みね (峰)

△源氏▽

ほけ三まいのみねの松かせに吹かよひ

二〇ウ9

みの (美濃)

△和名抄▽

みのをばりのさかひにもなりぬ

一六ウ11

みのかさ (蓑笠)

△伊勢▽

みのかさなときてさえつりくる女あり

九オ6

みまは・さ (見廻) [四]

△源氏▽

木すゑたにそゝろにはつかしくみまはされて

一四ウ9

みや (宮)

△源氏▽

かりそめなれとけにみやもわらやもとおもふには

一八ウ8

かのひたちのみやの御すま思ひいてらるゝに

三オ7

みやこ (都)

△源氏▽

こゝもみやこにはあらずきた山のふもとゝいふ所:

八オ2

これもみやこのかたよりとおほえて

九オ6

みやこの物まうてせんとてのほりきたるに

一五オ10

みやこのなこりもいつくをしのふ心にか心ほそく

一五ウ5

夜ふかくみやこをいてなんとするに

一五ウ8

みやこの山をかへりみれば

一六オ11

いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらん

一七オ10

みやこのともにもうちくしたる身ならましかは

一八オ1

みやこいてゝはるかになりぬれば

一八オ11

日かすふるまゝにみやこのかたのみ恋しく

一九オ4

みやこのかたよりもとにふみどものあまたあるを

一九ウ5

なにと又みやこへかへるらむとあちきなくものうし

二〇オ7

都をうしろにてこしおりのこゝちには

二〇ウ6

人をみやこ\*のはるかならねは

三オ11

みやこはちかき心のみはかりにて

三ウ1

みやこどり (都鳥)

△源氏▽

すみたかはらならねはことゝふへきみやことりも見

三ウ8

えす

おもひいてゝ名をのみしたふみやことり

一七ウ5

一四ウ9

みやこびと(都人)

△古今▽

みやこ二人さへおもひのほかにたつねしるたよりありて 二〇才10

みやま(深山)

△源氏▽

すてゝいてしもしのみやまの月ならて 二才2

人をみやまのはるかならねは 三才11

みやり(見遣) [四]

△源氏▽

なにゝ心とゝまるへくもあらぬをみやるも 三才1

いはのうへにおりゐて山のかたをみやれば 二才9

み・ゆ(見) [下二] ↓み

みる(見) [上一] ↓み

みわく(見分) [四]

△源氏▽

さすがに心ほそくて人見わくへくもあらず 三才2

みわた・さ(見渡) [四]

△源氏▽

すこしもへたゝらすみわたさるゝほどの道なれば 八才11

かひのしらねもいとしく見わたされたり 一才9

む

む(ん) [助動]

△源氏▽

心つからのなやましさもうれへきこえんとにやあら、

む

二才4・4

いつのとしにかあらんこの川に水の出たちし世

いつくにかあらんかすかに笛のをとの聞えくる

されはさらんとすこしおかしくなりぬ

かきをきつる文なともとりくしてを、かんとするほと

人やおとろかんとゆゝしくおそろしけれと 六才10

かくてつくくとおは、せんよりは 一才1

ものむつかしくおそろしき事この世にはいつかはお、

ほ、えん

八才4

かへらんほとをたにしらぬ心もとなさに

こゝとも又たちかへらん事もかたければ

夢のこゝちするにもいてきこえんかたなければ

あはれるこゝろのほとなかゝきこえんかたなくて

うき身をたればかりかうましてしたはむとあはれも

すまざん人はみぬへきまなるなどゝいさなへと

みやこの物まうてせんとてのほりきたるに

くらきよりくらきにたどらむななき夜のまとひを

なにをかたとゝめんと見出したるけしきも

すへて思ひますることなきこゝろのうちならんかし

これやかつらのさとの人ならんとみゆるに

いとはなれまうきあはらやのきならんとそゝろに

身のゆくあつるにいかになりはてんとすらんと

きえはてんけふりののちのくもをたに

しらすまよはんあとそかなしき

かくても人にやみつけられんとそらおそろしければ

又なりゆかんはていかゝ

↓てむ(三例)

↓なむ(七例)

かつらのさと人のなさげにをとらめやは 二才7

二才10

一才1

八才4

一才1

三才9

三才10

三才1

三才1

三才4

一才3

一才10

二才9

二才4

三才7

九才9

三才2

四才6

二才8

七才1

三才8

七才7

三才8

二才7

かくとはおほしよらさらめと

むかし(昔)

△源氏▽

一三〇10

これもむかしにはあらずなりぬるにや

むかひ(向) [四]

△源氏▽

一八〇5

御おもかけさへさしむかひたる心ちするに

むかへ(向)

△源氏▽

一五〇10

むかへの山をみれば雲のいくへともなくおりかさなり

むし

△源氏▽

一八〇8

かこちかほなる虫のねも物ことに心をいたましむる

むすびおけ(結置) [四]

△源氏▽

一〇7

むすびをけるへたてともかけとまるへくもあらず

むすぶ(結) [四]

△源氏▽

一八〇7

むすふともなきうたゝねのゆめ園

むせかへり(咽返) [四]

△源氏▽

一三〇11

たゝいひしらぬなみたのみむせかへりたる

むつかしき [形]

△源氏▽

一三〇11

うちつけにものむつかしき心のくせになん

ものむつかしくおそろしき事この世にはいつかは…

△源氏▽

一三〇10

あなむつかしとおほゆれと園

折しも打こはつくるふもむつかしときゝるたるに

△源氏▽

一七〇6

むつかしげなる [形動]

△源氏▽

一七〇6

むつかしげなるものともを舟にとりいれなとする程

むね(胸)

△源氏▽

一七〇6

むねうちさはきてひきひろけたれば

△源氏▽

一三〇8

うれしくもあはれにもさまゝむねしつかならず

きとむねふたかる心ちするを

恨もなけきもせきやるかたなきむねのうちを

むま(馬)

△源氏▽

一七〇4

人々もこしやむまと待いつるほと

むめきたのかた(梅?北方)

かのところにはむめきたのかた月ころわつらひ給ける

むめがえ(梅枝)

△源氏▽

一四〇6

むめかえの色つきそめしはしめより

むらむらに(群々) [副]

△千載▽△源氏▽

一六〇10

はま千とりむらくにとひわたりて

一七〇9

## め

め(目)

△源氏▽

さすかめもあはすみしろきふしたるに

山人のめにもとかめぬまゝに

つねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆるほとに園

みちのほとめとゝまる所々おほかれと

たればかりにかとめとゝめかたければ

人め

め(助動) ↓む

△源氏▽

一八〇2・一三〇9

めつらしき(珍) [形]

みなれすめつらしき心ちするにも

△源氏▽

一七〇11

めのまへ(目前)

△源氏▽

一七〇11



風になひくけふりのすゑもめのまへにあはれなれと 一九ウ1  
 めばやまき〔目早〕〔形〕  
 ちいさくかきつくれとめばやき山かつもやと 三〇ウ2

も

も〔保助〕  
 〆源氏〰

かこちかほなる虫のねも物ことに心をいたましむる 一オ7  
 一夜はかりのとたえもあるましきやうにならひにける 一ウ4  
 かはるけちめもみえぬものから 二オ4  
 心つからのなやましきもうれへきこえんとにやあらむ 二ウ4  
 松にかゝれる枝心の色もほかにはなる心地して 二ウ10  
 すみつき筆のなかれもいとみところあれと 三オ11  
 ことの葉のつゝきも見えずなりぬれは 三ウ2  
 御かへりもいかゝ聞えけん 三ウ2  
 なごりもいと心ほそくて 三ウ3  
 まくらにちかきかねのをともたゝいまの：心ちして 四オ1  
 御思ひのなごりもいとくるしくをしはかり聞ゆれと 四オ11  
 つれなきよのあはれさもみつからきこえあはせたく 四ウ3  
 うきたる身のとかもかうまでは思ひしらすそすままし 四ウ8  
 いまさら身のうさもやるかたなく恋しければ 四ウ10  
 さすか目もあはずみしろきふしたるに 五オ1  
 おもひしつめるこゝろもいかなりぬるにか 五オ4  
 月もいみしくあかければ 五オ5  
 はつかしきこともおほかり 五ウ1

ゆきかきくらしして風もいとすさまじき日 五ウ2  
 夜もいたく更ぬとて人はみなぬれと 五ウ4  
 みし夜のかきりもこよひそかしと思ひいつるに 五ウ8  
 かきくらす涙に月のかけも見えずとて 五ウ11  
 たへしのふへきこゝちもせず 六オ3  
 聞えかはしけることのつもりにけるほとも今はと： 六ウ2  
 せめて心のおにもおそろしければ 六ウ7  
 かきをきつる文などもとりくしてをかんとするほと 七オ4  
 すゝりのふたもせて有けるかかたはらにみゆるを 七オ6  
 筆のたちとも見えず 七オ10  
 夜もまたふかきに 七ウ5  
 心さす道もはかしくもおほえず 八オ1  
 こゝもみやこにはあらず 八オ1  
 夜もやう／＼ほの／＼とするほとになりぬ 八ウ1  
 みちゆき人もこゝもとはいとあやしととかむる人も 八ウ1

あれは 八ウ2・2  
 おりかさなりてゆくさきも見えず 八ウ9  
 おしからぬ命もたゝ今そ心ほそくかなしき 八ウ11  
 こしかた行ききも見えず 九オ2  
 これもみやこのかたよりとおほえて 九オ6  
 あめもおひたしく山ちさへまとひて 九ウ9  
 こしかたもおほえず行ききもえしらす 九ウ10・10  
 すへてこゝちもうせて 一〇オ9  
 かゝるところもありけりと 一〇ウ3

とし月のつみもかゝらぬところにてやみなましかは<sup>四〇ウ6</sup>  
ふるさとのにはもせにうきをしらせしあきかせは<sup>二〇ウ8</sup>  
うつゝ心もあらずあくかれそめにければ<sup>二〇オ5</sup>  
ひとかたならぬ恨もなげきもせきやるかたなき<sup>二ウ1・1</sup>  
おり／＼にちりくることの葉もありしにこそ<sup>二ウ6</sup>  
いつはりにさへなひはてにけることもあるにや<sup>二ウ8</sup>  
ちかのしほかまもいとかひなき心ちして<sup>二ウ10</sup>  
うらめしからぬそのふしもなし<sup>四</sup>  
さるへきつゐてもなくて<sup>四</sup>  
命もあやうきほとなるを<sup>二ウ6</sup>  
とはすかたりもあやしくて<sup>二ウ11</sup>  
空のけしきも日ころにこえて心ほそくかなし<sup>三ウ6</sup>  
宵ねすへきともゝなければ<sup>三ウ7</sup>  
とひくる人もなく心ほそきまゝに<sup>四〇オ1</sup>  
うき世の夢もをのつから思ひさますたよりなりける<sup>四〇オ4</sup>  
まとのしとみたつものもおろさす<sup>四〇オ7</sup>  
やう／＼心ちもをこたりさまになりたるを<sup>四ウ7</sup>  
きり／＼すのこゑのみたれも一かたならぬざめの…<sup>三〇オ3</sup>  
のちのおやかかたのむへきことほりもあさからぬ…<sup>三〇オ9</sup>  
る中のすまゐもみつゝなくさみ給へかし<sup>四</sup>  
かしこも物さはかしくもあらず<sup>四</sup>  
みやこのなこりもいつくをしふ心にか心ほそく<sup>一五ウ5</sup>  
あり明の光もいと心ほそくかせのをともすさまし<sup>一五ウ10・10</sup>

をとに聞しせきのし水もたえぬなみたとのみ思ひ…<sup>一六オ6</sup>  
たちわかれぬふるさともきてはくやしき旅ころも<sup>一六ウ4</sup>  
けちかくとふへき人もなければ<sup>一六ウ7</sup>  
野も山もはる／＼とゆくを<sup>一六ウ7・7</sup>  
とまりもしらす人のゆくにまかせて<sup>一六ウ8</sup>  
おとろへはつる身もわれかのこゝちのみして<sup>一六ウ10</sup>  
人々もこしやむまと待いつるほと<sup>一七オ4</sup>  
おほつかなく恋しきこともさま／＼なれと<sup>一七ウ3</sup>  
ことゝふへきみやことりも見えず<sup>一七ウ4</sup>  
これもむかしにはあらずなりぬるにや<sup>一八オ5</sup>  
はしもたゝひとつそみゆる<sup>一八オ6</sup>  
あたりのくさもみなかれたるころなればにや<sup>一八オ7</sup>  
それかとみゆるくさ木もなし<sup>一八オ8</sup>  
むすひをけるへたてとも／＼かけとまるへくもあらず<sup>一八ウ8</sup>  
けにみやもわらやもとおもふには<sup>一八ウ8・9</sup>  
あらいそのなみのをとままくらのをとおちくる…<sup>一九オ6</sup>  
風になひくけふりのすゑもゆめのまへにあはれなれ<sup>一九ウ1</sup>  
かひのしらねもいとしろく見たたされたり<sup>一九ウ3</sup>  
とにかくにさはるへきこゝ地もせねは<sup>二〇オ1</sup>  
みちもいとこほりとちて<sup>二〇オ2</sup>  
はか／＼しくうちそふ人もなくて<sup>二〇オ3</sup>  
さま／＼ととむる人もおほかりければ<sup>二〇オ4</sup>  
みる人も心くるしくとて<sup>二〇オ5</sup>  
又たちかへらん事もかたければ<sup>二〇オ9</sup>

たひのほとも思ひしらされと  
 日かすもうららかにて  
 とゝこほる所もなかりけるを  
 見出したるけしきもいとおそろしくて  
 かゝみの山もくもりてみゆるを  
 くだりしおりもこの程にてはあめふりいてたりし…  
 きみもさはよそのなかめやかよふらん  
 こゝもかしこも猶あれまきりたる心ちして  
 あはれもあさからす  
 あくかれし心もこりはてぬるにや  
 日かすのへたつるもいまはかくにこそと  
 またほとふるもことわりなから  
 人しれすたのみをかくるもおもへはあさましく  
 すいかいのおれのこりたるひまにたちかくるゝも  
 はこのふたなどのほとなく手にさはるもいとうれしく  
 打とはつくるふもむつかしときゝるたるに  
 あくるをまつもしつ心なく  
 とをつあふみとかやきくもはるけき道をわけて  
 それとたに見えずへたゝり行もそゝるに心ほそく  
 こよなく日かすのすくもこひしきこゝちするそ  
 かせさへましりてふき行もかきくれぬれは…  
 心とゝまるへくもあらぬをみやるも…  
 そゝるにみるもあわれなり  
 こよなくをこたりさまにみゆるもつき身を…

三〇ウ10  
 三〇ウ10  
 三〇ウ11  
 三〇ウ4  
 三〇ウ7  
 三〇ウ8  
 三〇ウ7  
 三〇ウ10・10  
 三〇ウ4  
 三〇ウ5  
 二〇ウ9  
 四〇ウ8  
 四〇ウ5  
 五〇ウ7  
 七〇ウ1  
 七〇ウ6  
 一五〇ウ5  
 一五〇ウ9  
 一六〇ウ1  
 三〇ウ7  
 三〇ウ2  
 三〇ウ1  
 三〇ウ2  
 三〇ウ3

つくくときふしたるもいける心ちたにせねは  
 うつまさにまうてゝんとおもひ立ぬるもかつうは…  
 御ふみとてとりいれたるもむねうちきはきて…  
 日比のつらさはみなわすられぬるも人わろき心の程や  
 すへりいてぬるもかへすく夢こゝちなんしける  
 やをらすへりいてぬるもわれなからうとまじきに  
 あやしくものくるをしきすかたしたるもすへて  
 なをさりにかきすてられたるもいと心うくて  
 まかふへうもあらねはかくとはおほしよらきらめと  
 いかにしてたへしのふへくもあらず  
 かけとまるへくもあらず  
 人見わくへくもあらず  
 なにゝ心とゝまるへくもあらぬを  
 はるくきぬとなけきけんも思ひ出らるれと  
 なつかしからさりつるもたちはなれなんはさすかに  
 はや山ふかく入なんとうちもやすまぬまゝに  
 一すちにうちもうれしく思ひなりぬ  
 露はかりおきもあかられすいたつらものにてふしたり  
 あやしきしきもさためぬとふのすかこもにたゝひとり  
 いたくもたとらすなりにしや  
 はつかしくもたのもしくもなりぬ  
 はかくしくもおほえす  
 いとうれしくもあはれにもさまくむねしつかなら  
 す

二〇ウ1  
 二〇ウ1  
 三〇ウ8  
 三〇ウ4  
 四〇ウ5  
 五〇ウ4  
 八〇ウ6  
 三〇ウ7  
 三〇ウ9  
 三〇ウ6  
 一八〇ウ8  
 二〇ウ2  
 二〇ウ11  
 一八〇ウ9  
 二〇ウ1  
 八〇ウ5  
 二〇ウ2  
 二〇ウ9  
 一〇ウ2  
 一〇ウ2  
 一〇ウ2  
 一〇ウ1  
 一三〇ウ1・1

こゝろほそくもやとる月かけ圖

一四〇11

物さはかしくもあらず圖

一五ウ2

はかなくもみすてられて…やまひになりて

一九ウ6

心ならずも夢のかよひちたえ果ぬへし

一九〇7

さき／＼もとのゐ人の夜ふかく…いつるならひなり…

七ウ9

さたかにもおほえずなりぬる御おもかけさへ…

五ウ10

すこしもへたゝらすみわたさるゝほとこの道なれば

八〇10

たゝ今もいてぬへきこゝちして

七ウ2

いとゝわすられぬるにやとみにもたゝれす

三〇1

↓しも(一三例)・をりしも(二例)

三〇1

↓ても(三例)

三〇1

こゝとでも又たちかへらん事もかたければ

三〇〇8

↓とも(一二例)・ども(四例)

三〇〇8

↓にも(三八例)

三〇〇8

いま一たひそれとはかりも見をくりきこゆるは

一三〇11

我がたへもかへらすなりぬ

六ウ5

けふまでもなからへてけるを

二ウ7

つねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆるほとに圖

六ウ3

つねよりもをとするこゝちするにも

二〇6

かねてきゝつるよりもあやしくはかなける所…

一三ウ4

つきせぬ涙のしづくはまとうつあめよりもなり

一五〇6

音にきゝけるよりもおもしろく

一七ウ8

みやこのかたよりもともにふみとものあまたあるを

一九ウ5

身をもなけてんとおもひけるにや圖

七ウ2

またくちろんとかやをもせず圖

九ウ7

露のいのちをもかけてけふまでもなからへてけるを

二ウ6

身をも世をもおもひしつむれと

三〇7・7

かくても人にやみつけれんと圖

七ウ7

↓さも(二例)

七ウ7

↓さても(三例)

七ウ7

とてもかくてもねのみなきかちなり

一六ウ2・3

こゝなからともかくもなりなは

三〇1・1

よもなかくしな人めもると圖

三ウ9

↓よもすがら(二例)

三ウ9

もこそ〔連・助〕

三ウ9

またきてなるゝおりもこそあれ圖

三ウ5

も・ち〔持〕〔四〕

三ウ5

きやうつとてに持たるはかりそたのもしきともなり

一四〇2

せきもりのなつかしからぬおもゝちとりにくゝ

三〇3

もと(元)

三〇3

もとのやうにいりてふしぬ

七ウ7

まぐらのもとにおちくるひゝきには

一九〇6

↓こゝもと(三例)

一九〇6

かへらんほとをたにしらぬ心もとなきに

一七ウ1

もとめいで(求出)〔下二〕

一七ウ1

はかなきやとりもとめいてゝうつろひなんとす

一三〇3

もの(物・者)

一三〇3

こゝろそなたてくかなしきものなりけるを

一ウ10

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

△源氏▽

今はとものおもひなりにしもといえはえに詠

あやしくものくるをしきものゝさまかなと詠

ものをのみおもひくちにしては

まとのしとみたつものもおろさず

よるは夜すからものをのみおもひつゝくる

うへなきものはと思ひけつこゝろのたけそ詠

おきもあかられすいたつらものにてふしたりしを

ものう・し (物憂) [形]

△源氏▽

二〇才10

又みやこへかへるらむとあちきなくものうし\*

ものおそろ・しき (物恐) [形]

△源氏▽

二〇才8

こよひはいとさひしく物おそろしきこゝちするに詠

水にたふれいりなとするにも…ものおそろしきに

あまくもさへたちかさなりていとものおそろしう…

いといたくあやうくものおそろしかりける

…と思ひけつこゝろのたけそもものおそろしかりける

ものおも・ふ (物思) [四]

△源氏▽

一〇才3

ものおもふ事のなくさむにはあらねとも

ものがたり (物語)

△源氏▽

一五才4

人二三人はかりして物かたりなとするに

こわらはのおなしこゑなるとものかたりする也けり

物かたりなとするつゝてに

ものかは

△源氏▽

一五才11

けに今さらにとりはものかはとそおもひしられる詠

ものから

△源氏▽

二〇才2

ありしにかはるけちめもみえぬものからとにかくに…  
ものぐるほ・しき (物狂) [形] △源氏▽  
二〇才4

あやしくものくるをしきすかたしたるも

あやしくものくるをしきものゝさまかなと詠

ものけし ↓ものうし

又みやこへかへるらむとあちきなくものけし  
ものごとに (物毎) [副] △源氏▽  
二〇才8

虫のねも物ごとに心をいたましむるつまとなりければ一〇才7

ものことになりおほかる心地するにも  
ものざわが・しく (物騒) [形] △源氏▽  
二〇才9

おりしも風さへ吹てものははかしくなりければ  
かしこも物さはかしくもあらず詠

人のおもふらんことゝものさはかしくもかたはらい  
たければ  
ものども (物共・者共) △源氏▽  
一五才2

むつかしけなるものどもを舟にとりいれなとする程  
ともすへきものどもなとこれかれとさためて  
ものまうで (物詣) △源氏▽  
一五才10

みやこの物まうでせんとてのほりきたるに詠

ものむつか・しき [形] △源氏▽  
二〇才10

うちつけにものむつかしき心のくせになん

ものむつかしくおそろしき事この世にはいつかは…  
もみぢ △源氏▽  
二〇才3

ほうこうんかう院の紅葉このころそさかりと見えて

二〇才7

山のかたをみやれば木々の紅葉色々に見えて

二ウ10

もや〔連・助〕

△源氏▽

さすがにおほしいつるおりもやと心をやりて

三オ11

おのつからころの行たよりもやとて

二ウ3

うきをわするゝたよりもやとあやなく思ひたちぬ

二五ウ7

めはやき山かつもやとつゝましなから

三〇ウ3

も・ゆる〔燃〕〔下二〕

△源氏▽

…とおもひいつるにそみゆるこゝちしける

二〇ウ8

もよほ・し〔催〕〔四〕

△源氏▽

いとゝしきなみたのもよほしになん

二ウ4

一かたならぬねさめのもよほしなれば

二五オ3

いとせめてあくかるゝ心もよほすにや

二オ11

も・り〔守〕〔四〕

△源氏▽

↓せきもり〔三例〕

三ウ9

よもなかめしな人めもるとて

三ウ9

もりぬ・れ〔漏瀟〕〔下二〕

あれまさりたる心ちしてところゝもりぬれたるさま

三ウ11

もんゐん〔門院〕

安嘉門院四糸

一オ2

や

や〔屋〕

△源氏▽

ねやちかききりゝすのこゑ

二五オ2

おなしかやゝともなとさすがにせはからねと

一八ウ6

みやもわらやもとおもふには

一八ウ8・9

閨屋ちかくたちやすらひたるに

三オ2

いとはなれまうきあはらやののきならんと

三オ1

や〔間投助・並立助〕

△枕・大文典▽

人々もこしやむまと待いつるほと河のはたにおりゐて

二七オ4

ひらのたかねやひえの山などに侍るといふをきくに

三ウ5

や〔保助・終助〕

△源氏▽

かこちかましくて君やこしとおおもひわかれぬ

四オ4

人やおとろかんとゆゝしくおそろしけれと

六ウ9

これやかつらのさとの人ならんとみゆるに

九オ8

きみもさはよそのなかめやかよふらん

三ウ7

人わろき心の程やとまたうちをかれて

三ウ4

はては山ちにまよひぬるそすへきかたなきや

八ウ11

こゝろの中はかりにてくたしはてぬるはいとかひな

三ウ11

しや

おなしくそのあたりまでみち引たまひてんや

二オ1

せきもりのうちぬる程をたにいたくもたとらすなり

一ウ3

にしや

きえかへりまたはくへしとおもひきや

四ウ10

かくてしもやとて

四ウ8

↓とかや〔三例〕

↓にや〔一九例〕

一七ウ6

↓もや〔四例〕

一七ウ6

いつそやつねよりもめとまりぬらんかし圖  
いてやをのつからおほかたのよのなさけを…  
二ウ4

↓これやさは(二例) ↓これ  
よしやおもへはやすきと圖  
六オ4

やうに(様)〔形動〕  
もとのやうにいりてふしぬれと  
七ウ8

夢のやうにみをきし山ちをたゝひとり行こゝち  
八オ3

入しれすなみをわけし事なと只いまのやうにおほえて  
三オ8  
とりのあとのやうにかきつゝけて  
一九ウ8

この河の水さかさまになかるゝやうにみゆるなと  
一九オ2

一夜はかりのとたえもあるましきやつにならひにける  
一ウ4

ものさはかしくなりければみさすやつにてたつ程  
三オ2

夢ちをたとるやうにて日かすふるまゝに  
一六ウ9

やうやう(漸)〔副〕  
やうく色つきぬ  
一ウ8

夜もやうくほのくとするほとになりぬ  
八ウ1

やうく心ちもをこたりさまになりたるを  
一四ウ7

やか〔接尾〕 ↓こまやか・しのびやか・のどやか・はなやか  
やがて(躑)〔副〕  
△源氏▽

やかてとゝむるふはのせきもり圖  
三オ6

やすき(安)〔形〕  
△源氏▽

よしやおもへはやすきとことほりに思ひたちぬる圖  
六オ4

やすみ(休)〔四〕  
△源氏▽

婦てもいとくるしければうちやすみたるほと  
三オ7

はや山ふかく入なんとうちもやすまぬまゝに  
八ウ5

いまはとうちやすむほとすへてこゝちもうせて  
二オ8

やすめ(休)〔下二〕  
△源氏▽

ゆきゝの人あつまりて身をやすめすさしかへるほと  
二オ2

やすらひ(安)〔四〕  
△源氏▽

かきくれぬれば関屋ちかくにたちやすらひたるに  
三オ2

やつはし(八橋)  
△伊勢▽

みかはのくにやつはしといふ所をみれば  
一オ5

やどり(宿)〔四〕  
△源氏▽

はかなきやとりもとめいてゝうつろひなんとす  
三オ3

こゝろほそくもやとる月かけ圖  
一四オ11

やは〔連・助〕  
△源氏▽

かつらのさと人のなさけにをとらめやは  
一〇オ7

人はこゝまでおもひやはよる圖  
一四ウ5

やま  
△源氏▽

いはのうへにおりゐて山のかたをみやれば  
二ウ9

はや山ふかく入なんとうちもやすまぬまゝに圖  
八ウ5

むかへの山をみれば雲のいくへともなくおりかさなり  
八ウ8

このやまのおくにたつめへきことありて圖  
九ウ7

野も山もはるくゝとゆくを  
一六ウ7

しろき雲おほかる山おほかれは  
三ウ4

あふさか山  
一六オ6・8圖

あらしの山  
八ウ7

かゞみの山・かゞみやま圖  
三オ7・10

きた山のふもとゝいふ所なれば  
にし山のふもとなれば

八オ 2  
八オ 7

ひらのたかねひえの山などに侍る 圖

三ウ 5

ふしの山はたゝこゝもとにとそみゆる

二オ 11・三ウ 8 圖

みやこの山

二オ 2・三オ 11

みやま 圖

△源氏▽

やまがつ(山賤)

△源氏▽

めはやき山かつもやとつゝましなから 圖

三ウ 3

やまち(山路)

△源氏▽

夢のやうにみをきし山ちをたゝひとり行こゝち

八オ 4

はては山ちにまよひぬるそすへきかたなきや

八ウ 10

山ちさへまとひてこしかたもおほえす行ききも 圖

九ウ 9

山ちはなを人のこゝちなりけるか

二オ 7

やまなか(山中)

△源氏▽

おほあめにふられてこの山なかへはいて給ぬるぞ 圖

九ウ 1

やまのは(山端)

△源氏▽

山のはちかきひかりのほのかにみゆるは七日の月 三

五ウ 7

やまひ(病)

△源氏▽

やまひになりてかきりになりたるよしを

一ウ 7

やまびと

△源氏▽

山人のめにもとかめぬまゝに

八オ 5

やまみづ(山水)

△源氏▽

こえわふるあぶさかやまのやまみづは 圖

一オ 8

やみ(闇)

△源氏▽

たとゝしきゆふやみにちきりたかへぬしるへはかり 三ウ 9

△源氏▽

こよひはつれなくてやみなましなと思ひみたるゝに 四ウ 11

かゝらぬところにてやみなましかはいかにせまし 圖 二ウ 7

よもすからやむともなきゝぬたの音 一オ 2

やり(遣)〔四〕

△源氏▽

心をやりておもひつゝくるにはつかしきことも 三 五ウ 1

いまさら身のうさもやるかたなく恋しければ 四ウ 10

恨もなけきもせきやるかたなきむねのうちを 二ウ 1

なにゝ心とゝまるへくもあらぬをみやるも 三オ 1

いはのうへにおりゐて山のかたをみやれば 二ウ 9

やりかへす(破返)〔四〕

手ならひのほんこなとやりかへすつゐてに 六オ 8

やをら〔副〕

△源氏▽

やをらすへりいてぬるもわれなからうとましきに 五オ 4

露まとろまれぬにやをらおきいてゝみるに 五ウ 5

人はみな何心なくね入ぬる程にやをらすへりいれは 六ウ 8

いてぬへきこゝちしてやをらはしをあげたれば 七ウ 3

ゆ

ゆがみたて(歪立)〔下二〕

しほかまとものおもひゝにゆかみたてたるすかた 三 七ウ 10

ゆき(雪)

△源氏▽

ゆきかきくらしして風もいとすさまじき日 五ウ 2



雪いとしろくて

ゆきたゝふりにふりくるに

一九〇11  
三〇1

ゆき(行)〔四〕

△源氏▽

みちゆき人もこゝもとはいとあやしととかむる人も

八九二

又なりゆかんはていかゝ

三〇八

山ちをたゝひとり行こゝち

八九四

あしのゆくにまかせてはや山ふかく入なんと

八九五

をのつからこゝろの行たよりもやとて圖

二〇二

野も山もはるくゝとゆくをとまりもしらす人のゆく

一六〇八・8

にまかせて夢ちをたとるやうにて

一七〇8・8

いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらん圖

一七〇10

それとたに見えずへたゝり行もそゝろに心ほそく

一六〇1

かせきへましりてふき行もかきくれぬれは…

三〇1

ゆきき(行来)

△源氏▽

ゆきゝの人あつまりて舟をやすめすさしかへるほと

一七〇1

ゆきつゝき(行着)〔四〕

△今昔▽

みわたさるゝほどの道なればさはりなく行つきぬ

八九11

かのところに行つきたれは

三〇四

くれはつるほとにゆきつきたれは

三〇九

ゆきま(雪間)

△源氏▽

かきくらす雪まをしはしまつ程そ圖

三〇五

ゆきわか・れ(行別)〔下二〕

△源氏▽

つるにこなたかなたへゆきわかれ給ほと

一三〇二

ゆくさき(行先)

△源氏▽

こしかたゆくさきを思ひつゝくるに

一〇九

雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えず

八九九

こしかた行ききも見えず

九〇二

こしかたもおほえず行ききもえしらす圖

九〇七

ゆくす系(行末)

△源氏▽

とまる人々の行す系をおほつかなく恋しきことも

一七〇二

ゆくへ(行方)

△源氏▽

あたなる身のゆく系つるにいかになりはてんとす圖

四〇六

さすらふる身のゆく系をのつからおもひしつむる…

二〇七

さてもいかにさすらふる身の行系にかと圖

一六〇二

ゆたのたゆたに〔副〕

△古今▽

ゆたのたゆたにものをのみおもひくちにしはては…

二〇四

ゆふ(夕)

△源氏▽

さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを

一五〇七

ゆふぐれ(夕暮)

△源氏▽

猶思ひなれにしゆふぐれのなかめにうちそひて

二〇11

ゆふづくよ(夕月夜)

△源氏▽

雲間のゆふつく夜のかけほのかなるに

三〇二

ゆふやみ(夕闇)

△源氏▽

たとゝしきゆふやみにちきりたかへぬしるへはかり

三〇九

ゆめ(夢)

△源氏▽

夢のやうにみをきし山ちをたゝひとり行こゝち

八九三

むすふともなきうたゝねのゆめ圖

一三〇11

うき世の夢もをのつから思ひさますたよりなりける

一四〇四

ゆめたにゆるせおきつしらなみ<sup>四</sup>

一九才10

さすかにたえぬ夢の心ちはありしにかはるけちめも

二才3

夢のこゝちするにもいてきこえんかたなければ

三ウ10

かへすく夢のこゝちなんしける

四才5

有し夢のしるしにやとうれしかりける<sup>四</sup>

六才5

かりの世の夢の中なるなけきはかりにもあらず

二才8

風になひくけふりのすゑもゆめのまへにあはれなれ

一九ウ1

ゆめうつつ(夢現)

△源氏▽

一ウ1

夢うつつともわきかたかりし宵のまより

△相模集▽

四才5

ゆめこち(夢心地)

△源氏▽

一六ウ9

かへすく夢こゝちなんしける

△古今▽

一ウ3

夢ちをたとるやうにて日かすふるまゝに

△古今▽

一ウ3

ゆめのかよひぢ(夢通路)

△古今▽

一ウ3

打しきる夢の通ひちは一夜はかりのとたえも：

△源氏▽

一九才7

心ならずも夢のかよひぢたえ果ぬへし

△源氏▽

一ウ3

ゆゆしく[形]

△源氏▽

一ウ3

人やおとろかんとゆしくおそろしけれと

△源氏▽

六ウ10

雨ゆしくふりまさりて

△源氏▽

八ウ7

何事にかゆしくあらそひて

△源氏▽

七才7

日たくるまゝにあめゆしくはれて

△源氏▽

三ウ4

ゆめたにゆるせおきつしらなみ<sup>四</sup>

△源氏▽

一九才10

ゆめ(故)

△源氏▽

一九才10

なにゆへかゝるおほあめにふられて：いて給ゆるそ<sup>四</sup> 九ウ1

よ

よ(世)

△源氏▽

いまはかくにこそとおもひなりぬるよの心ほそさそ

二才9

この川に水の出たちし世人しれすなみをわけし事なと<sup>三</sup> 七

よと、もにおもひいつれはくれたけの<sup>四</sup>

三ウ2

同じ世ともおほえぬまてにへたゝりはてにければ<sup>二</sup> 八

つれなきよ、あはれさもみつからきこえあはせたく<sup>四</sup> 三

おほかたのよ、なきけをすてぬなけのあはれはかりを<sup>二</sup> 四

よのわつらはしきにおもひなからのみなん<sup>四</sup>

身をも世をもおもひしつむれと

↓うきよ(四例)

おそろしき事この世にはいつかはおほえん

かりの世の夢の中なるなけきはかりにもあらず

よ(夜)

ねぬよのともとならひにける月のひかりまちいて：

夜もいたく更ぬとて人はみなねぬれと<sup>四</sup>

みし夜のかきりもこよひそかしと思ひいつるに

夜もまたふかきに

夜もやうくほのくとするほどになりぬれば

なかき夜のまとひをおもふにも

打しきる夢の通ひちは一夜はかりのとたえも：

雲間のゆふつく夜のかけほのかなるに

二才9

三才7

二ウ2

二ウ8

四ウ3

二ウ4

三ウ5

三才7

八ウ3

二才8

一才3

三ウ4

五ウ8

七ウ5

八ウ1

二才9

一ウ3

三才3

よ〔終助〕

わするなよあさまのはしらかはらずは 𩇑

△源氏▽

三ウ4

ようい〔用意〕

ひるよりよういしつるはさみはこのふたなどの

△源氏▽

六ウ11

よし〔由〕

やまひになりてかきりになりたるよしを…かきつゝけ 一九ウ8

△源氏▽

よしや〔縦〕〔副〕

よしやおもへはやすきとことほりに思ひたちぬる… 𩇑 六オ4

△源氏▽

六オ4

よすから〔夜〕

よるは夜すからものをのみおもひつゝくる

△万葉・日ボ▽

一九オ5

よ・せ〔寄〕〔下二〕

ふたもせて有けるかかたはらにみゆるを引よせて

△源氏▽

七オ7

よそ〔余所〕

きみもさはよそのなかめやかよふらん 𩇑

△源氏▽

三ウ7

よなか〔夜中〕

よなかよりふりいてつるあめのおくるまゝに…

△源氏▽

八オ8

よなよな〔夜夜〕〔副〕

たれをよなく恋わたりけん 𩇑

△源氏▽

二オ3

よのためし〔世例〕

さまゝよのためしにもなりぬへく

△源氏▽

二オ5

よのつね〔世常〕

おもへはあさましくよのつねならず 𩇑

△源氏▽

四ウ5

よは

はかなしなみしかき夜半の草まくら 𩇑

△源氏▽

三ウ3

よひ〔宵〕

夢うつゝともわかたかりし宵のまより

△源氏▽

一ウ2

をのつからたのむる宵はありしにもあらず

一ウ11

よひには雲かくれたりつる月の

五ウ6

あまきみたちのよひあか月のあかをとたゝす

二ウ4

↓こよひ〔四例〕

よひね〔宵寝〕

宵ねすへきともゝなければ

△藻塩草▽

三ウ7

よひる〔宵居〕

宵ゐすへきともゝなければ

△源氏▽

三ウ7

よぶかゝく〔夜深〕〔形〕

とのゐ人の夜ふかくかとをあけていつるならひなり…

△源氏▽

七ウ9

たつぬへきことありて夜ふかくいてつれと 𩇑

九ウ8

夜ふかくみやこをいてなんとするに

一五ウ8

よも〔副〕

よもなかめしな人めもるとて 𩇑

△源氏▽

三ウ9

よもぎがそま〔蓬袖〕

かゝるよもきかそまにくちはつへき契こそほと

△曾丹集・日ボ▽

三オ6

よもすから〔夜〕〔副〕

なかきおもひのよもすからやむともなきゝぬたの音

△源氏▽

一五オ2

よるは夜もすからものをのみおもひつゝくる

一五オ5

よ・り〔寄〕〔四〕

たゝあよみにあゆみよりて…ときえつる

△源氏▽

九オ10

かくとはおほしよらさらめと

三オ10

人はこゝまでおもひやはよる

一四ウ5

…と立よる人の御おもかけはしも

三オ9

より〔格助〕

△源氏▽

宵のまよりせきもりのうちぬる程をたに

一ウ2

ふたはよりまいりなれにしかは…たのもしき心ちして

二ウ2

色つきぞめしはしめより冬草かれはつるまで

六オ10

ひるよりよういしつるはさみはこのふたなどの

六ウ11

しやうし口より火のひかりのなをほのかにみゆるに

七オ5

よなかがりふりいてつるあめのあくるまゝに…

八オ8

ふるさとよりさかのわたりまではすこしもへたゝらす

八オ10

これもみやこのかたよりとおほえて

九オ6

いつくよりいつくをさしておはするを

九ウ2

くらきよりくらきにたとらむなかき夜のまとひを

一オ9

あふみのくにのちといふところよりあめかきくらし

一六オ10

いとおさなくよりはくゝみし人

一九ウ6

わか心よりおもひたちていてぬれと

三ウ8

かくてつくくとおはせんよりはる中のすまゐも…

一五ウ1

われよりはひさしかるへきあとなれと

三オ9

つねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆるほとに

六ウ3

水のまさるにやつねよりもをとするこゝちするにも

三オ6

かねてきゝつるよりもあやしくはかなげなる所の…

一三ウ4

つきせぬ涙のしつくはまとうつあめよりもなり

一五オ6

音にきゝけるよりもおもしろく

一七ウ8

みやこのかたよりもともにふみとものあまたあるを

一九ウ5

よりゐる〔寄居〕〔上二〕

△源氏▽

しぬへき心地さへすれはこゝによりゐたる也

九ウ11

つねにより居つるはしらの…なつかしからざりつるも

三オ11

よる〔夜〕

△源氏▽

よるは夜すからものをのみおもひつゝくる

一オ5

よろづ〔万〕

△源氏▽

よろづをわすれていそきのほりなんとするは

一九ウ10

よわりはて〔弱果〕〔下二〕

△千載・日ボ▽

いたくよはりはてにければ松かせのあらゝしきを

九オ5

ら

らうこ〔牢固〕

△法華経▽

せかいふらうことあるところをしるておもひつゝけ

一四オ3

らむ〔助動〕

△源氏▽

おもふかたにはとをさかるらむ

一オ4

なにと又みやこへかへるらむとあちきなくものうし

三オ8

ありしにまさる心地するはいかにおほしまとふらん

四オ10

つるにいかになりはてんとすらんと心ほそく

四ウ7

つねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆるほとに

六ウ3

いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらん

一七オ10

きみもさはよそのなかめやかよふらん

三ウ7

人のおもふらんことゝものさはかしく…

一九ウ11

みおとろく人おほかるらめなれとも

二オ6

らる〔助動〕

△源氏▽

かくても人にやみつけられんとそらおそろしければ圖セウ7  
 たゝひとりうちふしたれとゝけてしもねられず 三ウ9  
 あなかち思ひいてられてさすかにおほしいつるおりも 五オ11  
 なをさりにかきすてられたるもいと心うくて 三ウ7  
 はかなくもみすてられて心ほそかりつるおもひに 一九ウ7  
 かのひたちのみやの御すまる思ひいてらるゝに 五オ8  
 はるゝきぬとなけきけんも思ひ出らるれと 一八オ10

り

り〔助動〕 ↓る  
 りやつじゆせん(靈鷲山) △栄花▽  
 りやうしゆせんの雲井はるかに心を送るしるへとそ 一〇ウ11

る

る〔助動〕 △源氏▽  
 いける心ちたにせねは 二オ1  
 松にかゝれる枝心の色もほかにはなる心地して 二ウ10  
 かへにそむけるともしひのかけはかりを友として 一五オ4  
 はかなけなるあしはかりにてむすひをけるへたてとも 一八ウ7  
 る〔助動〕 △源氏▽  
 とみにもたゝれず 三オ1  
 君やこしともおもひわかれぬなかみちにれいの… 四オ4  
 露まどろまれぬにやをらおきいてゝみるに 五ウ5  
 露はかりおきもあかられず 一〇オ9

たひのほとも思ひしられされと 三ウ10  
 とりはものかはとそおもひしられける 二オ3  
 うきふるさとはいとゝわすられぬるにや 三オ1  
 日比のつらさはみなわすられぬるも人わるき心の程圖 三ウ4  
 こまやかにかきなされたるすみつき筆のなかれも 三オ10  
 またうちをかれて 三ウ5  
 かゝるおほあめにふられて圖 九ウ1  
 そゝろにはつかしくみまはされて 一四ウ9  
 たえぬなみたとのみ思ひなされて 一六オ7  
 かひのしらねもいとしろく見わたされたり 一九ウ4  
 秋のかせのうき身にしらるゝこゝろそうたてくかなし 一ウ9  
 すこしもへたゝらすみわたさるゝほどの道なれは 八オ11  
 さまゝゝにたすけあつかはるゝほと 二〇オ7  
 おもひわひてねのみなかるゝをみる人も心くるしく 二〇オ4  
 心ほそく思ひわつらはるれと 一五ウ6

れ

れい(鈴) △平家・日ボ▽  
 こゝかしこにせぬれいのをとなとをきくにつけても 一〇ウ5  
 れいならぬ(例)〔連〕 △源氏▽  
 其比こゝ地れいならぬことありて命もあやうきはと… 三ウ11  
 れいの(例)〔副〕 △源氏▽  
 れいのつまとをしあけて 一オ5  
 れいのなかゝかきみたすこゝろまよひに 三ウ1

れいの人しれすなかみちちかきそらにたに  
 なかみちにれいのたのもし人にてすへりいてぬるも  
 三ウ 8  
 四オ 4  
 四ウ 4  
 四ウ 11  
 二〇ウ 5

わ

わが(我)〔連体〕

△源氏▽

我心のみそかへすくうらめしかりける  
 一オ 11  
 あやにくにわか心よりおもひたちていてぬれと  
 三〇ウ 8  
 こゝにふし給へとて我かたへもかへらすなりぬ  
 六ウ 5

わか・れ(別)〔下二〕

△源氏▽

わかれにたえぬなみたとそみる  
 一六オ 9  
 我にもあらずおきわかれにし袖の露  
 四オ 3  
 つるにこなたかなたへゆきわかれ給ほと  
 一三ウ 2  
 すみわひてたちわかれぬるふるさと  
 一六ウ 4

わき(分)〔四〕

△源氏▽

夢うつともわきかたかりし宵のまより  
 一ウ 1  
 とりわきたりける御思ひのなこりもいとくるしく  
 四オ 10  
 さとわかぬひかりにもならひぬへきこちするは  
 三オ 9  
 君やこしもおもひわかれぬなかみちに  
 四オ 4  
 人見わくへくもあらずちいさくかきつくれと  
 三〇ウ 2

わけ(分)〔下二〕

△源氏▽

人しれすなみをわけし事なと只いまのやうにおほえて  
 三オ 7

うきせをわけて中川の水

三オ 10

きくもはるけき道をわけてみやこの物まうてせんとて  
 三オ 10  
 さはりかちなるあしわけにて神な月にもなりぬ  
 二オ 5  
 とにかくにおもひわけにし事なく  
 三〇オ 7  
 かみを引わくるほとそさすかそろおそろしかりける  
 七オ 2

わざ(業)

△源氏▽

あまのしわざにとしよりにけるしほかまもの  
 一七ウ 9

わしのみやま(驚御山)

△源氏▽

すてゝいてしわしのみやまの月ならて  
 二オ 2

わすら・れ(忘)〔連〕

△源氏▽

うきふるさとはいとわすられぬるにや  
 三オ 1

わすれ(忘)〔下二〕

△源氏▽

よろつをわすれていそきのほりなんとするは  
 一九ウ 10  
 わするなよあさまのはしらかはらすは  
 二〇ウ 4  
 うきをわするゝたよりもやと  
 一五ウ 7

わた・さ(渡)〔四〕

△源氏▽

すこしもへたゝらすみわたさるゝほと道のなれば  
 八オ 11  
 かひのしらねもいとしく見たたされたり  
 一九ウ 4

わたり(辺)↓あたり

△源氏▽

ふるさとよりさかのわたりまではすこしもへたゝらす  
 八オ 10

わた・り(渡)〔四〕

△源氏▽

かゝるわたりをきへたてはてぬれば  
 二オ 9  
 たれをよなく恋わたりけん  
 二オ 3

はま千とりむら〜にとひわたりて

一七ウ 9

わたりは・て (渡果) [下二]

からくしてさるへき人みなわたりはてぬれと

一七ウ 4

わづらは・し (頰) [形]

△源氏▽

ともかくもなりなはわづらはしかるへければ

一三ウ 1

よのわづらはしきにおもひなからのみなん

一三ウ 5

わづら・ひ (頰) [四]

△源氏▽

月ころわづらひ給けるかつるにきえはて給にければ

一四ウ 7

いつくをしをしのふ心にか心ほそく思ひわづらはるれと

一五ウ 6

わ・ひ (佗) [上二]

△源氏▽

なげきわひ身をはやきせのそことたに

一七ウ 11

すみわひてたちわかれぬるふるさとも

一六ウ 4

おもひわひてねのみなかるをみる人も心くるしく

一三ウ 4

こえわふるあふさかやまのやまみつは

一六ウ 8

おきふしなかめわふれと

一七ウ 7

わびは・つる (佗果) [下二]

△源氏▽

いとせめてわひはつるなくさみに

一五ウ 6

わらは (童)

△源氏▽

かのちいさきわらはにやしひやかにかうちたよくを

一五ウ 2

こわらはのおなしこゑなるとものかたりする也けり

一七ウ 7

わらや (菓屋)

△朗詠▽

けにみやもわらやもとおもふには

一八ウ 9

われ (我)

△源氏▽

われよりはひさしかるへきあとなれと

一三ウ 9

われかのこち

△源氏▽

おとろへはつる身もわれかのこちのみして

一六ウ 10

われながら

△拾遺▽

やをらすへりいてぬるもわれなからうとましきに

一五ウ 4

われなからさためなくたひのほとも思ひしられされと

一三ウ 9

われにもあらず [連]

△源氏▽

我にもあらずおきわかれにし袖の露

一四ウ 2

わる・き (悪) [形]

△源氏▽

日比のつらさはみなわすられぬるも人わるき心の程

一三ウ 4

や 詠

ゐ

ゐ (居) [上二]

△源氏▽

のとかなるみつうみのおちゐたるけちめに

一八ウ 3

かうらんのつまなるいはのうへにおりて

一七ウ 9

河のはたにおりてつく〜とこしかたをみれば

一七ウ 5

打こはつくるふもむつかしときゝるたるに

一七ウ 6

しぬへき心地さへすればこ〜によりゐたる也

一七ウ 11

つねにより居つるはしらのあら〜しきか

一八ウ 5

すこくをろかなるゐるものなかに

一八ウ 5

雲井はるかに

一〇ウ 11

宵るすへきとも〜なければ

一三ウ 7

ゐどころ (居所)

△落窪▽

た〜しやうしひとへをへたてたる居どころなれば

一六ウ 11

ゐなか(田舎)

△源氏▽

ゐ中のすまゐもみつゝなくさみ給へかし圖

一五ウ1

ゐん

△源氏▽

ほうこんかう院の紅葉このころそさかりと見えて

二ウ7

系

系

△源氏▽

松のこたちなと絵にかゝまほしくそみゆる

一八ウ4

を

を(男)

△源氏▽

あさましけなるしつのをとも

一七オ6

を〔格助〕

△源氏▽

物ことに心をいたましむるつまとなりければ

一オ7

心に乱れおつるなみたをさへて

一オ8

こしかたゆくさを思ひつゝくるに

一オ9

はかなかりける契りの程をなとかくしも思ひいれけん

一オ10

せきもりのうちぬる程をたにいたくもたとらすなり：

一ウ2

つき草のあたなる色をかねてしらぬにしもあらさりし

一ウ5

うちすくるかねのひゝきをつくゝときゝふしたるも

二オ1

山のかたをみやれは

二ウ9

人しれすちきりしなかのことの葉をあらしふけとは圖

三オ4

ひころのをこたりをととりそへて

三オ10

この御文をつくゝとみるにも

三ウ3

なみたをそふる水くきのあと圖

三ウ7

たゝいまのいのちをかきる心ちして

四オ2

日かすふるいふせさをかれゝそおとろかし給つる

四ウ2

人しれすたのみをかくるも

四ウ5

心をやりておもひつゝくるに

五オ11

今はとものをおもひなりにしもといへは圖

五オ6

かの御文ともをとりにてゝみれば

六オ9

しのひかたきふしゝをうちとけて聞えかはしける

六オ11

たゝしやうしひとへをへたてたる居ところなれば

六ウ11

かみを引わくるほとそ

七オ2

そきおとしたるかみをおしつゝみたるみちの国かみの

七オ8

たゝうちおもふ事をかきつくれと

七オ9

なけきつゝ身をはやくせのそことたに圖

七オ11

身をもなけてんとおもひけるにや

七ウ2

やをらはしをあげたれば

七ウ3

かとをあげていつるならひなりければ

七ウ10

そのほとを人しれすまつに

七ウ10

山ちをたゝひとり行こゝち

八オ4

むかへの山をみれば

八ウ8

人のてをにけいて給か圖

九オ11

くちろんなどをし給たりけるにか圖

九オ11

いつくよりいつくをさしておはするそ圖

九ウ2

したをたひゝならして

九ウ3

しきりに身のありさまをたつぬれば

九ウ6



これは人をうらむるにもあらず  
手をひかへてみちひく

九ウ 6

この所をみるに

一〇オ 2

こゝかしこにせぬれいのをとなどをきくに付けても

一〇ウ 2

にはもせにうきをせしらせしあきかせは

一〇ウ 5

雲井はるかに心を送るしるへとそなりにける

一〇ウ 9

たれをよな／＼恋わたりけん

一〇ウ 11

ものをのみおもひくちにしはては

一〇オ 3

さすらふる身のゆくゑをのつからおもひしつむる時

一〇オ 4

ななき夜のまとひをおもふにも

二〇オ 10

せきやるかたなきむねのうちを…かきなかせと

二〇ウ 2

おほかたのよのなざげをすてぬなげの

二〇ウ 5

露のいのちをもちかけて

二〇ウ 6

人しれすなみをわけし事など

二〇オ 7

うき世をわけて中川の水

三〇オ 10

きえはてんけふりのちのくもをたによもななめし

三〇ウ 8

なく／＼かとをひきいづるおりしも

三〇オ 5

せかいふらうことあるところをしめておもひつゝけて

三〇オ 3

まちなれしふるさとをたにとはざりし

三〇ウ 4

きくもはるけき道をわけて

三〇オ 10

いつくをしのふ心にか

三〇ウ 5

あらぬすまぬに身をかへたるとおもひなして

三〇ウ 6

うきをわするゝたよりもやとあやなく思ひたちぬ

三〇ウ 7

夜ふかくみやこをいてなんとするに

三〇ウ 9

みやこの山をかへりみれば

一六オ 11

夢ちをたとるやうにて日かすふるまゝに

一六ウ 9

ゆきゝの人あつまりて舟をやすめすさしかへるほと

一七オ 2

河のはたにおりゐてつく／＼とこしかたをみれば

一七オ 5

むつかしげなるものともを舟にとりいれなとする程

一七オ 6

かゝるわたりをさへへたてはてぬれば

一七オ 9

かへらんほとをたにしらぬ心もとなきに

一七ウ 1

とまる人々の行すゑをおほつかなく恋しきことも

一七ウ 2

おもひいてゝ名をのみしたふみやことり

一七ウ 5

みかはのくにやつはしといふ所をみれば

一八オ 5

おちつきところのさまをみれば

一八ウ 5

よるは夜すからものをのみおもひつゝくる

一九オ 5

かきりになりたるよしをとりのあとのやうにかき…

一九ウ 8

よろつをわすれていそきのほりなんとするは

一九ウ 10

都をうしろにてこしおりのこゝちには

二〇ウ 6

なにをかなとゝめんと見出したるけしきも

二〇オ 3

かきくらす雪まをしはしまつ程そ

二〇オ 5

人をみやまのはるかならねは

三〇オ 11

まことにかの人をみやこはちかき心のみはかりにて

三〇ウ 1

うき身をたればかりかうましてしたはむと

三〇オ 3

身をうき草にあくかれし心もこりはてぬるにや

三〇オ 3

身をも世をもおもひしつむれと

三〇オ 7・7

あとなきなみにねをやかなまし

一七ウ 6

しのひやかにうちたゝくをきゝつけたるには

三〇オ 3

すゝりのふたもせて有けるかかたはらにみゆるを引よせて

七オ7

ことくしくみゆるを…とめとゝめかたければ

一三オ7

きとむねふたかる心ちするをまちなれし…

一四ウ3

あくるをまつもしつ心なく

一五オ5

ふみとものおまたあるをみれば

一九ウ5

にはかにいそきたつを…さまくゝととむる人も…

三〇オ1

おもひわひてねのみなかるゝをみる人も心くるしく

三〇オ5

かゝみの山もくもりてみゆるを…と思ひいてゝ

三〇オ8

いつるをかきりにとおもひかへすそ

三二ウ2

ひえの山などに侍るといふをきくに

三二ウ6

松かせのあらくしきをたのもし人にて

九オ5

とりのあとのやうにかきつゝけておこせたるをみるに

一九ウ9

なにゝ心とゝまるへくもあらぬをみやるも

三三オ1

またくちろんとかやをもせず

九ウ7

あはればかりをおりくゝにちりくることの葉もありし

二五ウ5

かへにそむけるともしひのかけはかりを友として

二五オ4

いつくの野も山もはるゝとゆくを

一六ウ8

一夜はかりのとたえもあるましきやうにならひにけるを

一ウ4

うき身しらるゝこゝろそうたてくかなしきものなり

一ウ10

けるを

二ウ7

露のいのちをもかけてけふまでなからへてけるを

三〇ウ11

あらしふけとはおもはさりしを

三オ5

露はかりおきもあかられすいたつらものにてふした

二〇オ10

りしを

二〇オ10

やうく心ちもをこたりさまになりたるを

一四ウ7

こゝ地れいならぬことありて命もあやうきほとなるを

三〇オ1

さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを

一五オ8

みちもいとこほりとちてきはりかちにあやうかるへ

二〇オ2

をかしき

△源氏▽

二〇オ2

さまかはりていとおかしきさまなれと

一九オ3

されはさらんとすこしおかしくなりぬ

一八オ11

をさなく(効)

△源氏▽

一九オ3

いとおさなくよりはくゝみし人はかなくもみすてられ

一九ウ6

をし(惜)

△源氏▽

一八オ11

おしからぬ命もたゝ今そ心ほそくかなしき

八ウ11

をはり(尾張)

△和名抄▽

一六ウ11

みのをはりのさかひにもなりぬ

△源氏▽

一六ウ11

をり(折)

△源氏▽

一六ウ11

たゝそのおりの心ちして

一六ウ11

都をうしろにてこしおりのこゝちには

二〇ウ7

くたりしおりもこの程にてはあめふりいてたりし

三〇オ8

さすかにおほしいつるおりもやと心をやりて

三〇オ11

またきてなるゝおりもこそあれ

二〇ウ5

△日報▽

二〇ウ5

雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えず 八ウ9  
をりしも △源氏▽

おりしも風さへ吹てものははかしくなりければ 三オ1

とのる人さへ折しも打とはつくろふもむつかしと… 七ウ6

かとおひきいづるおりしもさきにたちたるくるまあり 三オ5

をりをり(折々) △源氏▽

おりくのおはれしのひかたきふしくを 六オ11

おりくうちにちりくることの葉もありしにこそ 二ウ5

をれのこり(折残)〔四〕 △源氏▽

すいかいのおれのこりたるひまにたちかくるゝも 五オ6

をんな(女) △源氏▽

みのかさなときてさえつりくる女あり 九オ7

ん ↓む



あやしく 九ウ3

あら〜しき 九オ5・三オ11

こゝはいつく〜 一六ウ6

あないとおしく 九ウ4

いよ〜 二オ1

おもひ〜に 一七ウ10

かへす〜 一オ11・四オ5

かす〜に 三ウ6

かれ〜 四ウ2

きり〜す 一五オ3

こと〜しく 一三オ7

さき〜 七ウ9

さま〜 二オ7・二オ5・三ウ1・七ウ3・六オ2・三オ3

しは〜 二ウ5

しほ〜と 八オ9

たと〜しき 三ウ9

たひ〜 九ウ4

つく〜と 二オ1・三ウ3・四オ7・五ウ1・七オ5・三オ6

ところ〜 三ウ11

なか〜 三ウ1・四ウ1・八ウ9

なく〜 一三オ5

はか〜しく 八オ1・三オ3

はる〜 一六ウ8・一八オ9・八ウ3

ひろ〜と 一七オ1

ふし〜 六オ11

ほの〜と 八ウ1

むら〜に 一七ウ9

やう〜 一ウ8・八ウ1・四ウ7

よな〜 二オ3

おり〜 六オ11・二ウ5